

**IBM DB2 10.1
for Linux, UNIX, and Windows**

**DB2 インストールおよび管理
概説 (Linux および Windows
版)**

IBM

**IBM DB2 10.1
for Linux, UNIX, and Windows**

**DB2 インストールおよび管理
概説 (Linux および Windows
版)**

IBM

ご注意

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、79ページの『付録 F. 特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書には、IBM の専有情報が含まれています。その情報は、使用許諾条件に基づき提供され、著作権により保護されています。本書に記載される情報には、いかなる製品の保証も含まれていません。また、本書で提供されるいかなる記述も、製品保証として解釈すべきではありません。

IBM 資料は、オンラインでご注文いただくことも、ご自分の国または地域の IBM 担当員を通してお求めいただくこともできます。

- オンラインで資料を注文するには、IBM Publications Center (<http://www.ibm.com/shop/publications/order>) をご利用ください。
- ご自分の国または地域の IBM 担当員を見つけるには、IBM Directory of Worldwide Contacts (<http://www.ibm.com/planetwide/>) をお調べください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： GI13-2047-00
IBM DB2 10.1
for Linux, UNIX, and Windows
Getting Started with DB2 Installation
and Administration on Linux and Windows

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

第1刷 2012.4

© Copyright IBM Corporation 2012.

目次

第 1 部 インストールの前提条件	1
第 1 章 ディスク要件とメモリー要件.	3
第 2 章 Windows でのインストールの前提条件	5
DB2 データベース・サーバーおよび IBMData Server Client のインストール要件 (Windows)	5
DB2 製品をインストールする前に Windows のシステム特権をセットアップする (Windows)	7
ユーザー権限の付与 (Windows)	10
DB2 システム管理者グループについての考慮事項 (Windows)	10
第 3 章 Linux でのインストールの前提条件	13
DB2 サーバーおよび IBM Data Server Client のインストール要件 (Linux)	16
一元的なユーザー管理に関する考慮事項 (Linux)	17
第 2 部 DB2 製品のインストール	19
第 4 章 DB2 セットアップ・ウィザードを使用した DB2 データベース・サーバーのインストール (Windows)	21
第 5 章 DB2 セットアップ・ウィザードによる DB2 サーバーのインストール (Linux)	25
第 3 部 インストールの検証	29
第 6 章 コマンド行プロセッサ (CLP) を使用したインストールの検査	31
第 7 章 メインメニューでの DB2 ツールの項目 (Linux)	33
第 4 部 DB2 製品ライセンス	35
第 8 章 DB2 ライセンス・ファイル.	37
第 9 章 db2licm コマンドによる DB2 データベース製品またはフィーチャー・ライセンス・キーの登録.	41
第 10 章 DB2 ライセンスの準拠の確認	43

第 11 章 試供ライセンスの更新	45
第 5 部 付録	47
付録 A. 応答ファイルによる DB2 製品のインストール	49
応答ファイルによるインストールの基礎.	49
応答ファイルに関する考慮事項.	49
DB2 セットアップ・ウィザードまたは DB2 インスタンスのセットアップ・ウィザードによる応答ファイルの作成	50
付録 B. DB2 製品の更新のチェック.	53
DB2 更新のチェック	53
付録 C. DB2 フィックスパックの適用	55
フィックスパックの適用	55
付録 D. DB2 製品のアンインストール	59
DB2 データベース製品のアンインストール (Windows)	59
DB2 データベース製品のアンインストール (Linux)	60
DB2 Administration Server の停止 (Linux)	61
DB2 Administration Server の除去 (Linux)	61
root DB2 インスタンスの停止 (Linux)	62
DB2 インスタンスの除去 (Linux)	63
db2_deinstall および doce_deinstall コマンドを使用した DB2 データベース製品の除去 (Linux)	64
付録 E. DB2 技術情報の概説	67
DB2 テクニカル・ライブラリー (ハードコピーまたは PDF 形式).	68
コマンド行プロセッサから SQL 状態ヘルプを表示する	70
異なるバージョンの DB2 インフォメーション・センターへのアクセス	71
コンピューターまたはイントラネット・サーバーにインストールされた DB2 インフォメーション・センターの更新.	71
コンピューターまたはイントラネット・サーバーにインストールされた DB2 インフォメーション・センターの手動更新	73
DB2 チュートリアル	75
DB2 トラブルシューティング情報.	75
ご利用条件	76
付録 F. 特記事項	79
索引	83

第 1 部 インストールの前提条件

第 1 章 ディスク要件とメモリー要件

DB2® 環境で適切な量のディスク・スペースが使用可能であることを確認し、それに応じてメモリーを割り振ります。

ディスク要件

この製品に必要なディスク・スペースは、選択するインストールのタイプ、およびご使用のファイル・システムのタイプに応じて異なります。DB2 セットアップ・ウィザードは、標準、コンパクト、またはカスタム・インストールの際に選択したコンポーネントに基づいて、動的にサイズの見積もりを行います。

データベース、ソフトウェア、および通信製品のために必要なディスク・スペースも忘れずに確保してください。

Linux オペレーティング・システムでは、/tmp ディレクトリーに 2 GB のフリー・スペースを確保することをお勧めします。

メモリー要件

メモリー要件は、データベース・システムのサイズと複雑さ、データベース・アクティビティーの範囲、およびシステムにアクセスするクライアントの数によって異なります。DB2 データベース・システムでは少なくとも 256 MB の RAM が必要です¹。DB2 製品と DB2 GUI ツールを実行するシステムであれば、少なくとも 512 MB の RAM が必要になります。ただし、パフォーマンスの改善のためには、1 GB の RAM をお勧めします。ここで示した要件には、システムで実行する他のソフトウェアのための追加のメモリー要件は含まれていません。IBM® Data Server Client サポートについては、これらのメモリー要件は 5 つの並行クライアント接続を基本としています。5 つのクライアント接続を追加するたびに、追加で 16 MB の RAM が必要になります。

DB2 サーバー製品では、いくつかのメモリー構成パラメーターの値を自動的に設定するセルフチューニング・メモリー・マネージャー (STMM) が用意されており、これによりメモリー構成の作業が簡略化されます。このメモリー・チューナーを有効にすると、ソート、パッケージ・キャッシュ、ロック・リスト、およびバッファーク・プールを含むいくつかのメモリー・コンシューマーの間で、使用可能メモリー・リソースが動的に配布されます。

ページング・スペース要件

DB2 では、ページング (スワップとも呼ばれる) を使用可能にする必要があります。この構成は、スワップ/ページング・スペースの使用状況をモニターし、その情報に依存する DB2 のさまざまな機能をサポートするために必要となります。実際に必要とされるスワップ/ページング・スペースの量は、システムによって異なります。また、単にアプリケーション・ソフトウェアによるメモリー使用状況に基づくわけでもありません。正確なスワップ/ページング・スペースが必要となるのは、

1. DB2 製品を Itanium ベース・システムの HP-UX バージョン 11i で実行する場合は、少なくとも 512 MB の RAM が必要です。

Solaris および HP プラットフォームの DB2 のみです。これらのプラットフォームでは、早い段階でページング・スペースを割り振るためです。

ほとんどのシステムでは、妥当なスワップ/ページング・スペースの最小構成は、RAM の 25 - 50% です。多数の小規模なデータベース、または STMM によってチューニングされた複数のデータベースを使用する Solaris および HP システムでは、RAM と同じサイズまたはそれ以上のページング・スペース構成が必要となる場合があります。データベースまたはインスタンスごとに仮想メモリーを事前割り振りするため、また複数データベースを STMM チューニングする場合、仮想メモリーを保持するため、より多くのスペースが必要となります。システムでの予期せぬメモリー・オーバーコミットメントに備えて、追加のスワップ/ページング・スペースをプロビジョンすることもできます。

第 2 章 Windows でのインストールの前提条件

DB2 データベース・サーバーおよび IBMData Server Client のインストール要件 (Windows)

DB2 データベース製品を Windows オペレーティング・システムにインストールする場合は、選択したシステムが、必要なオペレーティング・システム、ハードウェア、およびソフトウェアの要件を満たしていることを事前に確認してください。

db2prereqcheck コマンドが、システムがインストール前提条件を満たしているかどうかを検査します。

DB2 データベース製品には、入手可能ないくつかの異なるエディションがあります。一部の DB2 データベース製品およびフィーチャーは、特定のオペレーティング・システムでのみ使用できます。

表 1. Windows ワークステーション・プラットフォーム

オペレーティング・システム	前提条件	ハードウェア
Windows XP Professional (32 ビットおよび 64 ビット)	Windows XP Service Pack 3 以降	サポートされている Windows オペレーティング・システム (32 ビットおよび 64 ビット・ベースのシステム) を実行できる Intel および AMD のすべてのプロセッサ
Windows XP Enterprise (32 ビットおよび 64 ビット)	Windows Vista Service Pack 2	
Windows XP Ultimate (32 ビットおよび 64 ビット)	Windows 7 Service Pack 1	
Windows Vista Business (32 ビットおよび 64 ビット)	IBM Data Server Provider for .NET クライアント・アプリケーションと CLR サーバー・サイド・プロシージャには .NET 2.0 以降のフレームワーク・ランタイムが必要です。	
Windows Vista Enterprise (32 ビットおよび 64 ビット)		
Windows Vista Ultimate (32 ビットおよび 64 ビット)		
Windows 7 Professional (32 ビットおよび 64 ビット)	64 ビット IBM Data Server Provider for .NET アプリケーションがサポートされる	
Windows 7 Enterprise (32 ビットおよび 64 ビット)		
Windows 7 Ultimate (32 ビットおよび 64 ビット)		

表 2. Windows サーバー・プラットフォーム

オペレーティング・システム	前提条件	ハードウェア
Windows 2003 Datacenter Edition (32 ビットおよび 64 ビット) と Windows 2003 R2 (32 ビットおよび 64 ビット)	Service Pack 2 以降。 IBM Data Server Provider for .NET クライアント・アプリケーションと CLR サーバー・サイド・プロシージャーには .NET 2.0 以降のフレームワーク・ランタイムが必要。	サポートされている Windows オペレーティング・システム (32 ビットおよび 64 ビット・ベースのシステム) を実行できる Intel および AMD のすべてのプロセッサ
Windows 2003 Enterprise Edition (32 ビットおよび 64 ビット) と Windows 2003 R2 (32 ビットおよび 64 ビット)	64 ビット IBM Data Server Provider for .NET アプリケーションがサポートされる	
Windows 2003 Standard Edition (32 ビットおよび 64 ビット) と Windows 2003 R2 (32 ビットおよび 64 ビット)		
Windows Server 2008 Datacenter Edition (32 ビットおよび 64 ビット) と Windows Server 2008 R2 (64 ビット)	Service Pack 2 以降。 IBM Data Server Provider for .NET クライアント・アプリケーションと CLR サーバー・サイド・プロシージャーには .NET 2.0 以降のフレームワーク・ランタイムが必要。	
Windows Server 2008 Enterprise Edition (32 ビットおよび 64 ビット) と Windows Server 2008 R2 (64 ビット)	64 ビット IBM Data Server Provider for .NET アプリケーションがサポートされる	
Windows Server 2008 Standard Edition (32 ビットおよび 64 ビット) と Windows Server 2008 R2 (64 ビット)		

注: DB2 データベース製品は、一部の Windows オペレーティング・システムに組み込まれている hardware-enforced Data Execution Prevention (DEP) フィーチャーをサポートします。

ソフトウェアに関する追加の考慮事項

- Windows インストーラ 3.0 が必須です。検出されない場合は、インストーラーによりインストールされます。
- IBM Data Server Provider for .NET クライアント・アプリケーションと CLR サーバー・サイド・プロシージャーには .NET 2.0 以降のフレームワーク・ランタイムが必要です。x64 環境では、32 ビット IBM Data Server Provider for .NET アプリケーションは WOW64 エミュレーション・モードで稼働します。
- LDAP (Lightweight Directory Access Protocol) を使用する予定の場合は、Microsoft LDAP クライアントまたは IBM Tivoli® Directory Server V6 クライアント (別名 IBM LDAP クライアント、DB2 データベース製品に付属) のどちらかを使用します。Microsoft Active Directory のインストールの前に、**db2schex** ユーティリティを使用してディレクトリー・スキーマを拡張する必要があります。このユーティリティはインストール・メディア上の `db2\Windows\utilities` ディレクトリーの下にあります。

Microsoft LDAP クライアントは、Windows オペレーティング・システムに組み込まれています。

- オンライン・ヘルプの表示、DB2 インストール・ランチパッド (setup.exe) の実行、およびファースト・ステップ (db2fs) の実行には、以下のいずれかのブラウザが必要です。
 - Firefox 3.0 以降
 - Internet Explorer 7.0 以降
 - Google Chrome
 - Safari 4.0

DB2 製品をインストールする前に Windows のシステム特権をセットアップする (Windows)

DB2 データベース製品を Windows 上にインストールするための通常の方法は、Administrator のユーザー・アカウントを使用することです。しかし、Administrator 以外のアカウントを使用して DB2 データベース製品をインストールすることもできます。これを行うには、Windows の Administrator が、システム特権のフィーチャーを Windows 中に構成する必要があります。

このタスクについて

このタスクでは、Windows の Administrator が、Administrator 以外のユーザー・アカウントを使用してインストールできるようにするため、コンピューターにシステム特権をセットアップする方法について説明します。DB2 管理者権限を Administrator 以外のユーザーに付与するための関連タスクについても説明します。

一般に、Windows の Administrator がこのタスクを実行するのは、Administrator アカウントを持たない別のユーザーが DB2 データベース製品をインストールできるようにするためです。このユーザーの役割は、DB2 データベース製品をインストールすることだけの場合もあれば、インストール後に DB2 データベース製品を管理することも含まれる場合もあります。

制約事項

この手順を開始する前に、Administrator 以外のユーザーがシステム特権を使用して行うインストールに関する、以下の制約事項に注意してください。

- Administrator 以外のユーザーがフィックスパックやアドオン製品のインストール、または DB2 データベース製品のアップグレードを行えるのは、事前のインストールまたはアップグレードを実行したのが Administrator 以外の同じユーザーだった場合だけです。
- Administrator 以外のユーザーは、DB2 データベース製品をアンインストールできません。Windows Vista (以降) のオペレーティング・システムでは、Administrator 以外のユーザーでも DB2 データベース製品をアンインストールできます。

この手順では、Windows グループ ポリシー エディタを使用します。

手順

1. 「スタート」 > 「ファイル名を指定して実行」をクリックし、**gpedit.msc** と入力します。「グループ・ポリシー」ウィンドウがオープンします。
2. 「コンピュータの構成」 > 「管理用テンプレート」 > 「Windows コンポーネント」 > 「Windows インストーラ」をクリックします。
3. 以下のグループ・ポリシーの設定値を有効にします。
 - 常にシステム特権でインストールする (必須)
 - ユーザーによるインストール制御を有効にする (必須)
 - Windows インストーラを無効にする。これを有効にしたうえで、「適用しない」に設定します。
 - システム特権でインストールされている製品にユーザーが修正プログラムを適用できるようにする (オプション)
 - メディア ソースがシステム特権を使ってインストールされているときユーザーが使用できるようにする (オプション)
 - ソースがシステム特権でインストールされているときユーザーが参照できるようにする (新規インストールの場合はオプション、フィックスパックのアップグレードの場合は必須)
4. インストールを実行するユーザー・アカウントに関するシステム特権を有効にします。
 - a. 「ユーザーの構成」 > 「管理用テンプレート」 > 「Windows コンポーネント」 > 「Windows インストーラ」をクリックします。
 - b. 「常にシステム特権でインストールする」(必須) グループ・ポリシー設定を有効にします。
5. DB2 データベース製品をインストールするユーザー・アカウントに関連したセットアップを実行します。
 - DB2 データベース製品をインストールするユーザー・アカウントを識別します。必要な場合は、そのアカウントを作成してください。
 - そのアカウントに、インストール先となるドライブに対する書き込み権限を付与します。
6. オプション: フィックスパックのインストールに当てはまる、次の追加のステップを完了します。
 - a. `sqllib%cfg` ディレクトリーへの読み取りアクセスを付与します。
 - b. フィックスパックのインストールは製品に対する小さなアップグレードと見なされるので、`allowlockdownpatch` を有効にします (Windows Installer SDK 資料に説明されています)。
7. 次のいずれかの方法で、コンピューターのセキュリティー・ポリシーをリフレッシュします。
 - PC をリブートします。
 - コマンド行で、**gpupdate.exe** と入力します。

タスクの結果

この手順に従うことにより、コンピューターにシステム特権をセットアップするとともに、DB2 データベース・サーバー製品、クライアント、およびフィックスパックをインストールできるユーザー・アカウントをセットアップすることができます。

DB2 データベース製品のインストールの完了後、以下を行うことができます。

- インスタンスのデータベース・マネージャー構成に定義されているシステム管理 (SYSADM) またはシステム制御 (SYSCTRL) の権限グループのユーザーはすべて、DB2 インスタンス内で DB2 データベースを作成して使用することができます。
- ローカル Administrator 権限を持ったユーザーのみ、**db2icrt**、**db2idrop**、**db2iupdt**、または **db2iupgrade** などの、DB2 インスタンス・ユーティリティーを実行することができます。
- **db2start** または **db2stop** コマンドの実行に関する許可要件は、**START DATABASE MANAGER** コマンドおよび **STOP DATABASE MANAGER** コマンドのトピックに定義されています。

次のタスク

Windows グループ ポリシー エディタの代わりに **regedit** を使用する

Windows グループ ポリシー エディタを使用する代わりに、**regedit** を使用します。

1. レジストリー・ブランチ
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Policies¥Microsoft¥Windows に、キー installer を追加します。
2. キー installer を編集し、次の値を指定します。
 - AlwaysInstallElevated に REG_DWORD=1 を入力します
 - AllowLockdownBrowse に REG_DWORD=1 を入力します
 - AllowLockdownMedia に REG_DWORD=1 を入力します
 - AllowLockdownPatch に REG_DWORD=1 を入力します
 - DisableMSI に REG_DWORD=0 を入力します
 - EnableUserControl に REG_DWORD=1 を入力します
3. レジストリー・ブランチ
HKEY_CURRENT_USER¥SOFTWARE¥Policies¥Microsoft¥Windows に、キー installer を追加します。
4. キー installer を編集し、次の値を指定します。
 - AlwaysInstallElevated に REG_DWORD=1 を入力します

システム特権の除去

システム特権を付与した後で、この操作を無効にすることができます。これを行うには、

HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Policies¥Microsoft¥Windows にあるレジストリー・キー Installer を除去します。

Administrator 以外のユーザーに DB2 管理者権限を付与する

この時点では、Windows Administrators グループのメンバーだけが DB2 管理者権限を持ちます。Windows Administrator は、SYSADM、SYSMAINT、SYSCTRL などの 1 つ以上の DB2 権限を、DB2 データベース製品をインストールした Administrator 以外のユーザーに付与することを選択できます。

ユーザー権限の付与 (Windows)

このトピックでは、Windows オペレーティング・システムでユーザー権限を付与するのに必要なステップを説明します。DB2 のインストールとセットアップに必要なユーザー・アカウントごとに、それぞれ個別のユーザー権限が推奨されています。

このタスクについて

Windows 上で高度なユーザー権利を付与するには、ローカル管理者としてログオンしなければなりません。

手順

1. 「スタート」->「ファイル名を指定して実行」をクリックし、secpol.msc と入力します。Windows 2008 および Windows Vista (またはそれ以降) では、「スタート」をクリックしてから、検索バーに secpol.msc と入力します。「OK」をクリックします。
2. 「ローカル セキュリティ ポリシー」を選択します。
3. 左のウィンドウ区画で、「ローカル ポリシー」オブジェクトを拡張し、「ユーザー権利の割り当て」を選択します。
4. 右のウィンドウ区画で、割り当てたいユーザー権利を選択します。
5. メニューから、「アクション」->「セキュリティ...」を選択します。
6. 「追加」をクリックし、権利を割り当てるユーザーまたはグループを選択し、「追加」をクリックします。
7. 「OK」をクリックします。

次のタスク

Windows ドメインに属するコンピューターの場合、ドメイン・ユーザー権限がローカル設定をオーバーライドする可能性があります。その場合、ネットワーク管理者がユーザー権限を変更しなければなりません。

DB2 システム管理者グループについての考慮事項 (Windows)

デフォルトでは、アカウントが定義されているコンピューター上の管理者グループに属する有効な DB2 ユーザー・アカウントすべてにシステム管理 (SYSADM) 権限が認可されます。アカウントがローカル・アカウントである場合、ローカル管理者グループに属していなければなりません。アカウントがドメイン・アカウントである場合は、ドメイン・コントローラーにある管理者グループまたはローカルの管理者グループに属していなければなりません。レジストリー変数

DB2_GRP_LOOKUP=local を設定し、ドメイン・アカウント (またはグローバル・グル

ープ) をローカル・グループに追加すれば、常にローカル・コンピューター上のグループ検索を DB2 データベース・サーバーに強制実行させることができます。

例えば、ユーザーがドメイン・アカウントにログオンし、DB2 データベースにアクセスしようとする場合、DB2 データベース・サーバーはドメイン・コントローラーに移動してグループ (管理者グループも含む) を列挙します。

ドメイン・ユーザーの場合、SYSADM 権限を持つには、ローカルの管理者グループまたはドメイン・コントローラーの管理者グループに属していなければなりません。DB2 データベース・サーバーは常に、アカウントが定義されているマシンで許可を実行するので、サーバー上でローカル管理者グループにドメイン・ユーザーを追加しても、DB2_GRP_LOOKUP=local を設定しなければ、ドメイン・ユーザーの SYSADM 権限をこのグループに付与することにはなりません。

ドメイン・ユーザーをドメイン・コントローラーの管理者グループに追加しないようにするには、グローバル・グループを作成し、SYSADM 権限を付与するドメイン・ユーザーをこのグローバル・グループに追加します。続いて、このグローバル・グループの名前を持つ DB2 構成パラメーター SYSADM_GROUP を更新します。

DB2 構成パラメーターを更新するには、以下のコマンドを入力します。

```
db2 update dbm cfg using sysadm_group global_group
db2stop
db2start
```

第 3 章 Linux でのインストールの前提条件

DB2 サーバーおよび IBM Data Server Clientのインストール要件 (Linux)

DB2 データベース製品を Linux オペレーティング・システムにインストールする場合は、選択したシステムが、必要なオペレーティング・システム、ハードウェア、ソフトウェア、および通信の要件を満たしていることを事前に確認してください。**db2prereqcheck** コマンドが、システムがインストール前提条件を満たしているかどうかを検査します。

DB2 データベース製品には、入手可能ないくつかの異なるエディションがあります。一部の DB2 データベース製品およびフィーチャーは、特定のオペレーティング・システムでのみ使用できます。

IBM DB2 pureScale[®] Feature のインストールを計画している場合には、異なるインストール前提条件が必要です。『DB2 pureScale Feature のインストール』のトピックを参照してください。

DB2 データベース製品は、以下のハードウェアでサポートされています。

- x86 (Intel Pentium、Intel Xeon、および AMD) の 32 ビット Intel および AMD プロセッサ
- x64 (64 ビットの AMD64 および Intel EM64T プロセッサ)
- POWER[®] (Linux をサポートする System i[®]、System p[®]、および POWER Systems)
- System z[®]: System z196、System z10[®]、または System z9[®]

サポート対象となる最低レベルの Linux のオペレーティング・システムには、以下が含まれます。

- Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 5 Update 6
- Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6
- SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 10 Service Pack 3
- SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 11 Service Pack 1
- Ubuntu 10.04

サポートされている Linux ディストリビューションの最新情報については、<http://www.ibm.com/software/data/db2/linux/validate/> を参照してください。

注:

- バージョン 9.7 フィックスパック 2 とそれ以降のフィックスパック (およびバージョン 9.8 フィックスパック 2 とそれ以降のフィックスパック) には、IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms (SA MP) Base Component の更新バージョンが組み込まれており、SLES 11 または POWER7[®] システムを使用する環境で使用できます。詳しくは、『IBM Tivoli System Automation for

Multiplatforms (SA MP) Base Component のインストール』または『IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms (SA MP) Base Component のアップグレード』を参照してください。

マルチスレッド・アーキテクチャーの制約事項

DB2 32 ビットのデータベース製品を Linux オペレーティング・システム上にインストールしようとしている場合、代わりに 64 ビットのエペレーティング・システムにアップグレードして、DB2 64 ビットのデータベース製品をインストールすることを考慮してください。マルチスレッド・アーキテクチャーでは、通常メモリー構成が簡略化されます。ただし、これは 32 ビットの DB2 データベース・サーバーのメモリー構成に影響を与える場合があります。以下に例を示します。

- エージェント・スレッドの専用メモリーは、単一プロセス内で割り振られます。データベース・エージェントのすべての専用メモリーの割り振りを総計すると、単一プロセスのメモリー・スペース内に収まらない場合があります。
- すべてのデータベースに対してすべてのデータベース共有メモリー・セグメントが単一プロセスで割り振られるため、複数データベースのサポートは制限されています。すべてのデータベースを同時に正常に活動化するために、一部のデータベースのメモリー使用量を減らすことが必要になる場合があります。ただし、データベース・マネージャーのパフォーマンスに影響を受ける場合があります。代替方法として、複数のインスタンスを作成し、それらのインスタンスにまたがってデータベースをカタログすることもできます。ただし、この構成をサポートするには、十分なシステム・リソースが必要です。

ディストリビューション要件

DB2 データベース製品をインストールする前に、カーネル構成パラメーターを更新する必要があります。特定のカーネル・パラメーターのデフォルト値は、DB2 データベース・システムを実行する際には不十分な場合があります。

Linux システム・リソースを必要とする製品またはアプリケーションが他にもある場合があります。Linux システム作動環境のニーズに基づいて、カーネル構成パラメーターを変更する必要があります。

カーネル構成パラメーターは、`/etc/sysctl.conf` 中で設定されます。

`sysctl` コマンドを使用してこれらのパラメーターを設定して活動化することに関する情報は、ご使用のエペレーティング・システムの資料を参照してください。

パッケージ要件

SLES および RHEL ディストリビューションのパッケージ要件を以下の表にまとめます。

- DB2 データベース・サーバーが 32 ビットの非 SQL ルーチンを実行するには、`libpam.so.0` (32 ビット) が必要です。
- DB2 データベース・サーバーで非同期入出力を使用する場合に `libaio.so.1` が必要。
- DB2 データベース・サーバーおよびクライアントに `libstdc++.so.6` が必要。

SLES および RHEL のパッケージ要件

パッケージ名	説明
libaio	DB2 データベース・サーバーに必要な非同期ライブラリーが含まれます。
compat-libstdc++	libstdc++.so.6 が含まれます (Linux on POWER では不要)。

DB2 のパーティション・データベース・サーバーに関する SUSE Linux ディストリビューションと Red Hat ディストリビューションのパッケージ要件を以下の表にまとめます。

- SUSE10 および RHEL5 システムでは、**ksh93** Korn シェルが必要です。他のすべての DB2 データベース・システムでは、**pdksh** Korn シェル・パッケージが必要です。
- パーティション・データベース・システムでは、リモート・シェル・ユーティリティーが必要です。DB2 データベース・システムでは、以下のリモート・シェル・ユーティリティーがサポートされています。

– **rsh**

– **ssh**

デフォルトで DB2 データベース・システムは、リモート DB2 データベース・パーティションを起動する場合など、リモート DB2 ノードに対してコマンドを実行する際に **rsh** を使用します。DB2 データベース・システムのデフォルトを使用するには、**rsh-server** パッケージがインストールされている必要があります (下の表を参照)。**rsh** および **ssh** に関する詳細情報は、DB2 インフォメーション・センターから入手できます。

rsh リモート・シェル・ユーティリティーを使用する場合は、**inetd** (または **xinetd**) をインストールして実行することも必要です。**ssh** リモート・シェル・ユーティリティーを使用する場合は、DB2 のインストールが完了した直後に、**DB2RSHCMD** 通信変数を設定する必要があります。このレジストリー変数が設定されていない場合は、**rsh** が使用されます。

- パーティション・データベース・システムでは、**nfs-utils** ネットワーク・ファイル・システム・サポート・パッケージが必要です。

DB2 データベース・システムのセットアップを進める前に、すべての必要なパッケージをインストールして構成する必要があります。Linuxに関する一般情報については、Linux ディストリビューションの資料を参照してください。

SUSE Linux のパッケージ要件

パッケージ名	説明
pdksh または ksh93	Korn シェル。
openssh	このパッケージには、ユーザーがリモート・コンピューター上、またはリモート・コンピューターから、セキュア・シェルを介してコマンドを実行できるサーバー・プログラムのセットが含まれています。DB2 データベース・システムのデフォルト構成である rsh を使用する場合は、このパッケージは不要です。

SUSE Linux のパッケージ要件

パッケージ名	説明
rsh-server	このパッケージにはサーバー・プログラムの集合が含まれており、ユーザーはこれらのプログラムを使用して、リモート・コンピューター上でのコマンドの実行、他のコンピューターへのログイン、およびコンピューター間でのファイルのコピー (rsh 、 rexec 、 rlogin 、および rcp) を行えます。 ssh を使用するように DB2 データベース・システムを構成する場合は、このパッケージは不要です。
nfs-utils	ネットワーク・ファイル・システム・サポート・パッケージ。リモート・コンピューターからローカル・ファイルにアクセスすることが可能になります。

Red Hat のパッケージ要件

ディレクトリー	パッケージ名	説明
/System Environment/Shell	pdksh または ksh93	Korn シェル。このパッケージはパーティション・データベース環境で必要です。
/Applications/Internet	openssh	このパッケージには、ユーザーがリモート・コンピューター上でセキュア・シェルを介してコマンドを実行することができるクライアント・プログラムのセットが含まれています。DB2 データベース・システムのデフォルト構成である rsh を使用する場合は、このパッケージは不要です。
/System Environment/Daemons	openssh-server¥	このパッケージには、ユーザーがリモート・コンピューターから、セキュア・シェルを介してコマンドを実行するためのサーバー・プログラムのセットが含まれています。DB2 データベース・システムのデフォルト構成である rsh を使用する場合は、このパッケージは不要です。
/System Environment/Daemons	rsh-server	このパッケージにはプログラムの集合が含まれており、ユーザーはこれらのプログラムを使用して、リモート・コンピューター上でコマンドを実行できます。パーティション・データベース環境で必要です。 ssh を使用するように DB2 データベース・システムを構成する場合は、このパッケージは不要です。
/System Environment/Daemons	nfs-utils	ネットワーク・ファイル・システム・サポート・パッケージ。リモート・コンピューターからローカル・ファイルにアクセスすることが可能になります。

ソフトウェアに関する考慮事項

- (クライアントおよびサーバー) Kerberos 認証を使用するには、オペレーティング・システムの Kerberos パッケージを介して Linux krb5 Kerberos サポートをインストールします。
- オンライン・ヘルプの表示およびファースト・ステップ (**db2fs**) の実行には、以下のいずれかのブラウザが必要です。
 - Firefox 3.0 以降
 - Google Chrome
 - Safari 4.0
- 以下の場合は、グラフィカル・ユーザー・インターフェースをレンダリングできる X Window System ソフトウェアが必要です。
 - DB2 セットアップ・ウィザードを使用して DB2 データベース製品を Linux オペレーティング・システム上にインストールする場合。あるいは
 - DB2 グラフィック・ツールを x86 用の Linux および AMD 64/EM64T 上の Linux で使用したい場合。
- Micro Focus は、SLES 11 上ではいずれの COBOL コンパイラ製品もサポートしていません。

Security-enhanced Linux での考慮事項

RHEL システムの場合、Security-enhanced Linux (SELinux) が有効にされ、enforcing (強制) モードの場合は、インストーラーが SELinux の制限のために失敗する可能性があります。

SELinux がインストールされ、enforcing モードであるかどうかを確認するには、以下の 1 つを実行することができます。

- `/etc/sysconfig/selinux` ファイルを確認する
- `sestatus` コマンドを実行する
- SELinux の注意事項用の `/var/log/messages` ファイルを確認する

SELinux を無効にするには、以下の 1 つを実行することができます。

- permissive (容認) モードに設定して、スーパーユーザーで `setenforce 0` コマンドを実行する
- `/etc/sysconfig/selinux` を変更して、マシンをリブートする

DB2 データベース製品が RHEL システム上に正常にインストールされると、DB2 の各プロセスは `unconfined` ドメインで実行されます。DB2 のプロセスをそれ自身のドメインに割り当てるには、ポリシーを変更します。サンプルの SELinux ポリシーが、`sqllib/samples` ディレクトリーに提供されています。

一元的なユーザー管理に関する考慮事項 (Linux)

セキュリティ・ソフトウェアが組み込まれた環境では、インストールの注意点がいくつかあります。

注: ユーザーおよびグループがオペレーティング・システム外で制御される場合は、DB2 インストールでそれらのユーザーおよびグループを更新したり作成したり

できません。例えば、LDAP を使用して、オペレーティング・システム外でユーザーおよびグループを制御する場合は該当します。

注: Network Information Services (NIS) および Network Information Services Plus (NIS+) フィーチャーは、DB2 バージョン 9.1 フィックスパック 2 以降では推奨されなくなりました。今後のリリースでは、それらのフィーチャーのサポートが除去されるかもしれません。一元的なユーザー管理サービスについて推奨されているソリューションは、Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) です。

インスタンス作成時に、セキュリティー・コンポーネントがなければ、インスタンス所有者のグループ・リストは、データベース管理サーバー (DAS) ユーザーのプライマリー・グループのグループ・リストが組み込まれるよう変更されます (DAS が作成される場合)。インスタンス作成プログラムがこれらのプロパティーの変更を行うことができない場合には、できなかったことを報告します。警告メッセージで、手動で変更を行うのに必要な情報を提供します。

外部セキュリティー・プログラムのために、DB2 インストールまたはインスタンス作成プログラムがユーザー特性を変更できない環境では、これらのことに注意する必要があります。

第 2 部 DB2 製品のインストール

第 4 章 DB2 セットアップ・ウィザードを使用した DB2 データベース・サーバーのインストール (Windows)

このタスクでは、Windows 上で DB2 セットアップ・ウィザードを開始する方法を説明します。DB2 セットアップ・ウィザードを使用して、インストールを定義し、DB2 データベース製品をご使用のシステムにインストールします。

始める前に

DB2 セットアップ・ウィザードを開始する前に、以下の事柄を行います。

- ご使用のシステムがインストール、メモリー、およびディスクの各要件に合うことを確認します。
- LDAP を使用して、DB2 サーバーを Windows オペレーティング・システムの Active Directory に登録する予定であれば、インストールの前にディレクトリー・スキーマを拡張します。そうでない場合は、手動でノードを登録し、データベースをカタログする必要があります。詳しくは、『LDAP ディレクトリー・サービス用の Active Directory スキーマの拡張 (Windows)』のトピックを参照してください。
- インストールを実行するために推奨されるユーザー権限を持つ、ローカル管理者ユーザー・アカウントを持っている必要があります。LocalSystem を DAS および DB2 インスタンス・ユーザーとして使用できる、データベース・パーティション・フィーチャーを使用していない DB2 データベース・サーバーでは、システム特権を持つ非管理者ユーザーがインストールを実行できます。

注: 非管理者ユーザー・アカウントが製品のインストールを実行する場合、DB2 データベース製品のインストールを試行する前に VS2010 ランタイム・ライブラリーがインストールされている必要があります。DB2 データベース製品をインストールする前にオペレーティング・システムには VS2010 ランタイム・ライブラリーが必要です。VS2010 ランタイム・ライブラリーは、Microsoft ランタイム・ライブラリーのダウンロード Web サイトから入手できます。次の 2 つの選択が存在します。vcredist_x86.exe (32 ビット・システム用) または vcredist_x64.exe (64 ビット・システム用)

- 必須ではありませんが、リポートなしでインストール・プログラムがコンピューター上の任意のファイルを更新できるようにするために、すべてのプログラムを閉じることをお勧めします。
- DB2 製品を仮想ドライブまたはマップされていないネットワーク・ドライブ (例えば、Windows エクスプローラで `\\hostname\sharename` と表示されるもの) からインストールすることはサポートされていません。DB2 製品のインストールを試行する前に、ネットワーク・ドライブを Windows ドライブ名 (例えば、Z:) にマップする必要があります。

制約事項

- どのユーザー・アカウントでも、DB2 セットアップ・ウィザードの複数のインスタンスを実行することはできません。

- DB2 コピー名とインスタンス名は、数値で始めることはできません。DB2 コピー名は、文字 A から Z、a から z および 0 から 9 で構成される 64 英文字に制限されています。
- DB2 コピー名とインスタンス名は、すべての DB2 コピーの間で固有でなければなりません。
- XML フィーチャーは、データベース・パーティションが 1 個のみであるデータベースでのみ使用できます。
- 以下のいずれかが既にインストールされている場合は、同じパスに他の DB2 データベース製品をインストールすることはできません。
 - IBM Data Server Runtime Client
 - IBM Data Server Driver Package
 - DB2 インフォメーション・センター
- DB2 セットアップ・ウィザード・フィールドでは英語以外の文字を受け入れません。
- Windows Vista か Windows 2008、またはそれ以降で拡張セキュリティーを有効にする場合、ローカル DB2 コマンドとアプリケーションを実行するために、ユーザーは DB2ADMNS または DB2USERS グループに属している必要があります。これは、ローカル管理者にデフォルトで付与されている特権を制限する特別なセキュリティー・フィーチャー (ユーザー・アクセス制御) のためです。ユーザーがこれらのグループの 1 つに属していない場合、ローカル DB2 構成またはアプリケーション・データに対する読み取りアクセス権限が与えられません。

手順

次のようにして、DB2 セットアップ・ウィザードを開始します。

1. DB2 インストール用に定義したローカル管理者アカウントで、システムにログインします。
2. DB2 データベース製品 DVD を所有している場合は、これをドライブに挿入します。自動実行フィーチャーを有効にしている場合、DB2 セットアップ・ランチパッドが自動的に開始されます。自動実行機能が作動しない場合は、Windows エクスプローラを使用し、DB2 データベース製品 DVD をブラウズして **setup** アイコンをダブルクリックし、DB2 セットアップ・ランチパッドを開始します。
3. DB2 データベース製品をパスポート・アドバンテージからダウンロードした場合は、実行可能ファイルを実行して DB2 データベース製品インストール・ファイルを解凍します。Windows エクスプローラを使用し、DB2 インストール・ファイルをブラウズして **setup** アイコンをダブルクリックし、DB2 セットアップ・ランチパッドを開始します。
4. DB2 セットアップ・ランチパッドから、インストールの前提条件およびリリース情報を表示することができます。あるいは、インストールに直接進むこともできます。後で追加されたインストール前提条件およびリリース情報を参照することもできます。
5. 「製品のインストール」をクリックすると、「製品のインストール」ウィンドウに、インストールに使用できる製品が表示されます。

既存の DB2 データベース製品がコンピューターにインストールされていない場合は、「**新規インストール**」をクリックして、インストールを起動します。DB2 セットアップ・ウィザードのプロンプトに従ってインストールを進めます。

既存の DB2 データベース製品が 1 つ以上コンピューターにインストールされている場合は、次のようにできます。

- 新しい DB2 コピーを作成するには、「**新規インストール**」をクリックします。
 - 既存の DB2 コピーの更新、既存の DB2 コピーへの機能追加、既存の DB2 バージョン 9.5 またはバージョン 9.7 のコピーのアップグレード、またはアドオン製品のインストールを実行するには、「**既存の処理**」をクリックします。
6. DB2 セットアップ・ウィザードは、システム言語を判別してから、その言語用のセットアップ・プログラムを立ち上げます。残りのステップについて説明しているオンライン・ヘルプを利用できます。オンライン・ヘルプを呼び出すには、「ヘルプ」をクリックするか、または **F1** を押します。「**キャンセル**」をクリックすれば、いつでもインストールを終了できます。
7. DB2 セットアップ・ウィザードを使用する際のサンプル・パネルからインストール・プロセスに進みます。関連リンクを参照してください。

タスクの結果

DB2 データベース製品がインストールされるデフォルトの場所は `Program_Files\IBM\sqllib` ディレクトリーで、`Program_Files` は Program Files ディレクトリーの場所を表します。

インストール先のシステムでこのディレクトリーが既に使用中の場合、DB2 データベース製品のインストール・パスに `_xx` が追加されます。 `xx` は 01 で始まる数字で、インストール済みの DB2 コピーの数に応じて増加します。

独自の DB2 データベース製品のインストール・パスを指定することもできます。

次のタスク

- インストールを検証します。
- 必要なインストール後の作業を実行します。

インストール時に検出されるエラーの詳細については、`My Documents\DB2LOG\` ディレクトリーにあるインストール・ログ・ファイルを確認してください。ログ・ファイルは `DB2-ProductAbbrrev-DateTime.log` という形式になります (例えば `DB2-ESE-Tue Apr 04 17_04_45 2012.log`)。

これが Vista 64 ビット上の新しい DB2 製品インストールであり、32 ビットの OLE DB プロバイダーを使用する予定の場合は、`IBMDADB2.DLL` を手動で登録する必要があります。この DLL を登録するには、次のコマンドを実行します。

```
c:\windows\SysWOW64\regsvr32 /s c:\Program_Files\IBM\SQLLIB\bin\ibmdadb2.dll
```

`Program_Files` は Program Files ディレクトリーの場所を表します。

ローカル・コンピューターか、ネットワーク上の別のコンピューターにある DB2 資料に DB2 データベース製品からアクセスできるようにする場合は、DB2 インフォメーション・センター をインストールする必要があります。DB2 インフォメーション・センター には、DB2 データベース・システムと DB2 関連製品の資料が収録されています。デフォルトでは、DB2 インフォメーション・センター がローカルにインストール済みでなければ、Web を介して DB2 情報にアクセスできます。

DB2 セットアップ・ウィザードを実行して、IBM Data Studio をインストールすることができます。

DB2 Express® Edition および DB2 Workgroup Server Edition のメモリー限度

DB2 Express Edition をインストールしている場合、このインスタンスで許可される最大メモリーは 4 GB です。

DB2 Workgroup Server Edition をインストールしている場合、このインスタンスで許可される最大メモリーは 64 GB です。

インスタンスに割り振られるメモリー量は、**INSTANCE_MEMORY** データベース・マネージャー構成パラメーターによって決まります。

バージョン 9.5 または 9.7 からアップグレードする際の重要な注意事項:

- セルフチューニング・メモリー・マネージャーを使用する場合、ライセンス限度を超えてインスタンス全体のメモリー限度が増やされることはありません。

第 5 章 DB2 セットアップ・ウィザードによる DB2 サーバーのインストール (Linux)

このタスクでは、Linux オペレーティング・システムで DB2 セットアップ・ウィザードを開始する方法を説明します。DB2 セットアップ・ウィザードを使用して、インストール設定を定義し、ご使用のシステムに DB2 データベース製品をインストールします。

始める前に

DB2 セットアップ・ウィザードを開始する前に、以下の事柄を行います。

- ご使用のシステムがインストール、メモリー、およびディスクの各要件に合うことを確認します。
- サポートされるブラウザがインストールされていることを確認します。
- DB2 データベース・サーバーは、root 権限と非 root 権限のどちらを使用してもインストールできます。非ルート・インストールについては、「DB2 サーバー機能 インストール」の『非ルート・インストールの概要 (Linux および UNIX)』を参照してください。
- DB2 データベース製品イメージが使用可能でなければなりません。DB2 インストール・イメージは、物理的な DB2 データベース製品の DVD を購入するか、またはパスポート・アドバンテージからインストール・イメージをダウンロードすることによって入手することができます。
- 英語版以外の DB2 データベース製品をインストールする場合は、該当する National Language Packages が必要になります。
- DB2 セットアップ・ウィザードは、グラフィック・インストーラーです。ご使用のマシンで DB2 セットアップ・ウィザードを実行するには、グラフィカル・ユーザー・インターフェースを表示できる X windows ソフトウェアが必要です。X windows サーバーが実行中であることを確認します。ディスプレイを正しくエクスポートしたことを確認してください。例えば、`export DISPLAY=9.26.163.144:0` のようにします。
- セキュリティー・ソフトウェアを使用している環境の場合、DB2 セットアップ・ウィザードを開始する前に、必要な DB2 ユーザーを手動で作成しなければなりません。

制約事項

- どのユーザー・アカウントでも、DB2 セットアップ・ウィザードの複数のインスタンスを実行することはできません。
- XML フィーチャーは、コード・セット UTF-8 で定義され、データベース・パーティションが 1 個のみであるデータベースでのみ使用できます。
- DB2 セットアップ・ウィザード・フィールドでは英語以外の文字を受け入れません。
- Itanium ベースの HP Integrity Series システム上の HP-UX 11i V2 の場合、DB2 インスタンス所有者のセットアップ・ウィザードで作成されたユーザー、fenced ユーザー、または DAS には DB2 セットアップ・ウィザードで指定されたパス

ワードを使ってアクセスすることはできません。セットアップ・ウィザードが終了した後、それらのユーザーのパスワードを再設定する必要があります。これは、セットアップ・ウィザードを使ったインスタンスまたは DAS の作成には影響しません。したがって、インスタンスまたは DAS を再作成する必要はありません。

手順

次のようにして、DB2 セットアップ・ウィザードを開始します。

1. 物理的な DB2 データベース製品 DVD を入手している場合は、次のコマンドを入力することによって、DB2 データベース製品 DVD がマウントされているディレクトリに移動します。

```
cd /dvdrom
```

ここで、*/dvdrom* は、DB2 データベース製品 DVD のマウント・ポイントを表しています。

2. DB2 データベース製品イメージをダウンロードした場合は、製品ファイルを解凍して *untar* しなければなりません。

- a. 以下のようにして、製品ファイルを解凍します。

```
gzip -d product.tar.gz
```

ここで、*product* はダウンロードした製品の名前です。

- b. 以下のようにして、製品ファイルを *untar* します。

Linux オペレーティング・システムの場合

```
tar -xvf product.tar
```

ここで、*product* はダウンロードした製品の名前です。

- c. 以下のようしてディレクトリを変更します。

```
cd ./product
```

ここで、*product* はダウンロードした製品の名前です。

注: National Language Package をダウンロードした場合、同じディレクトリに *untar* します。それぞれのサブディレクトリ (例えば、*./nlpack*) が同じディレクトリに作成されるので、インストーラーは、プロンプト画面を表示しなくてもインストール・イメージを自動的に検出できます。

3. データベース製品イメージのあるディレクトリから ***./db2setup*** コマンドを入力して、DB2 セットアップ・ウィザードを開始します。
4. 「IBM DB2 セットアップ・ランチパッド」がオープンします。このウィンドウから、インストールの前提条件およびリリース・ノートを表示することができます。あるいは、インストールに直接進むこともできます。追加された最新のインストール前提条件およびリリース情報を参照することをお勧めします。
5. 「製品のインストール」をクリックすると、「製品のインストール」ウィンドウに、インストールに使用できる製品が表示されます。

「新規インストール」をクリックすることにより、インストールを起動します。DB2 セットアップ・ウィザードのプロンプトに従ってインストールを進めます。

6. DB2 セットアップ・ウィザードを使用する際のサンプル・パネルからインストール・プロセスに進みます。関連リンクを参照してください。

インストールを開始した後、DB2 セットアップ・ウィザードのインストール・パネルに従って、選択を行ってください。残りのステップについて説明しているインストール操作のヘルプを利用できます。インストール操作のヘルプを呼び出すには、「ヘルプ (Help)」をクリックするか、または F1 を押します。「キャンセル」をクリックすれば、いつでもインストールを終了できます。

タスクの結果

非 root インストールの場合、DB2 データベース製品は必ず `$HOME/sqllib` ディレクトリにインストールされます。ここで、`$HOME` は非 root ユーザーのホーム・ディレクトリを表します。

root インストールの場合には、DB2 データベース製品はデフォルトではインストールされます。

Linux /opt/ibm/db2/V10.1

インストール先のシステムでこのディレクトリが既に使用中の場合、DB2 データベース製品のインストール・パスに `_xx` が追加されます。`_xx` は 01 で始まる数字で、インストール済みの DB2 コピーの数に応じて増加します。

独自の DB2 データベース製品のインストール・パスを指定することもできます。

DB2 インストール・パスには、以下の規則があります。

- 英小文字 (a から z)、英大文字 (A から Z)、および下線文字 (`_`) を使用できます。
- 128 文字を超えることはできません。
- スペースは使用できません。
- 英語以外の文字は使用できません。

インストール・ログ・ファイルは、以下で構成されています。

- DB2 セットアップ・ログ・ファイル。このファイルは、エラーを含むすべての DB2 インストール情報をキャプチャーします。
 - root インストールの場合、DB2 セットアップ・ログ・ファイル名は `db2setup.log` です。
 - 非 root インストールの場合、DB2 セットアップ・ログ・ファイル名は `db2setup_username.log` となり、`username` はインストールを実行した非 root ユーザー ID です。
- DB2 エラー・ログ・ファイル。このファイルは、Java によって戻されるエラー出力 (例外やトラップ情報など) をキャプチャーします。
 - root インストールの場合、DB2 エラー・ログ・ファイル名は `db2setup.err` です。
 - 非 root インストールの場合、DB2 エラー・ログ・ファイル名は `db2setup_username.err` となり、`username` はインストールを実行した非 root ユーザー ID です。

デフォルトでは、/tmp ディレクトリーにこうしたログ・ファイルがあります。これらのログ・ファイルの場所を指定できます。

db2setup.his ファイルはなくなりました。代わりに、DB2 インストーラーは DB2 セットアップ・ログ・ファイルのコピーを DB2_DIR/install/logs/ ディレクトリーに保管し、名前を db2install.history に変更します。この名前が既存の場合は、DB2 インストーラーは名前を db2install.history.xxxx (xxxx はこのマシンにインストールした数に応じて 0000 から 9999 になる) に変更します。

ヒストリー・ファイルのリストはインストール・コピーごとに異なります。インストール・コピーが除去されると、このインストール・パスの下のヒストリー・ファイルもまた除去されます。このコピー・アクションはインストールの終了直前に行われるので、完了前にプログラムが停止したり異常終了したりすると、ヒストリー・ファイルは作成されません。

次のタスク

- インストールを検証します。
- 必要なインストール後の作業を実行します。

DB2 セットアップ・ウィザードを実行して、IBM Data Studio をインストールすることができます。

また National Language Packages は、DB2 データベース製品のインストール後に、National Language Packages があるディレクトリーから **./db2setup** コマンドを実行するとインストールできます。

Linux x86 では、ローカル・コンピューターか、ネットワーク上の別のコンピューターにある DB2 資料に DB2 データベース製品からアクセスできるようにする場合は、DB2 インフォメーション・センターをインストールする必要があります。DB2 インフォメーション・センター には、DB2 データベース・システムと DB2 関連製品の資料が収録されています。

DB2 Express Edition および DB2 Workgroup Server Edition のメモリー限度

DB2 Express Edition をインストールしている場合、このインスタンスで許可される最大メモリーは 4 GB です。

DB2 Workgroup Server Edition をインストールしている場合、このインスタンスで許可される最大メモリーは 64 GB です。

インスタンスに割り振られるメモリー量は、**INSTANCE_MEMORY** データベース・マネージャー構成パラメーターによって決まります。

バージョン 9.5 または 9.7 からアップグレードする際の重要な注意事項:

- バージョン 9.5 または 9.7 DB2 データベース製品のメモリー構成が許容限度を超過すると、DB2 データベース製品は現行バージョンへのアップグレード後に開始しない可能性があります。
- セルフチューニング・メモリー・マネージャーを使用する場合、ライセンス限度を超えてインスタンス全体のメモリー限度が増やされることはありません。

第 3 部 インストールの検証

第 6 章 コマンド行プロセッサ (CLP) を使用したインストールの検査

SAMPLE データベースを作成してから SQL コマンドを実行してサンプル・データを取り出すことで、インストール内容を検査することができます。

始める前に

- (フィーチャーの選択に含まれる) SAMPLE データベース・コンポーネントがシステムにインストール済みでなければなりません。これは標準インストールに含まれています。
- SYSADM 権限を持つユーザーが必要です。

手順

インストール内容を検査するには、以下のステップを実行します。

1. SYSADM 権限を持つユーザーとしてシステムにログオンします。
2. **db2start** コマンドを入力して、データベース・マネージャーを開始します。
3. **db2samp1** コマンドを入力して、SAMPLE データベースを作成します。

このコマンドの処理には、数分間かかることがあります。完了メッセージはありません。コマンド・プロンプトが戻ると、プロセスは完了です。

SAMPLE データベースが作成されると、自動的にデータベース別名 SAMPLE としてカタログされます。

4. SAMPLE データベースに接続し、部門 20 で働いているすべての従業員のリストを検索してから、データベース接続をリセットします。以下のコマンドをコマンド行プロセッサ (CLP) で入力します。

```
connect to sample
select * from staff where dept = 20
connect reset
```

出力は以下のようなものになるはずです。

ID	NAME	DEPT	JOB	YEARS	SALARY	COMM
10	Sanders	20	Mgr	7	98357.50	-
20	Pernal	20	Sales	8	78171.25	612.45
80	James	20	Clerk	-	43504.60	128.20
190	Sneider	20	Clerk	8	34252.75	126.50

4 record(s) selected.

次のタスク

インストールを検査し終わったら、SAMPLE データベースを除去してディスク・スペースを解放することができます。SAMPLE データベースをドロップするには、**db2 drop database sample** コマンドを入力します。

第 7 章 メインメニューでの DB2 ツールの項目 (Linux)

インストールの後、いくつかの DB2 ツールをメインメニューに追加することができます。

Linux オペレーティング・システムでは、以下の DB2 ツールをメインメニューに追加することができます。

- DB2 更新のチェック
- コマンド行プロセッサ (CLP)
- Command Line Processor Plus (CLPPlus)
- ファースト・ステップ

これらの DB2 ツールをメインメニューに自動的に追加することも、手動で追加することもできます。以下のいずれかの DB2 コマンドを実行すると、メインメニュー項目が自動的に作成されます。

- **db2icrt**
- **db2iupdt**
- **db2nrcfg**
- **db2nrupdt**

db2icrt および **db2iupdt** コマンドは **root** で実行する必要があります。 **db2nrcfg** および **db2nrupdt** は非 **root** インストール用であり、インスタンス所有者によって実行されます。

メニュー項目を表示させるには、デスクトップ・コンピューターを再始動しなければなりません。

以下のいずれかのコマンドを実行すると、メインメニュー項目が自動的に除去されます。

- **db2_deinstall** (非 **root** インストールを除去する場合、DB2 非 **root** インスタンス用のメニュー項目だけが除去されます)
- **db2idrop**

また、以下のコマンドを実行することにより、メインメニュー項目を手動で作成または除去することができます。

- **db2addicons** – メニュー項目の追加
- **db2rmicons** – メニュー項目の除去

db2addicons コマンドを実行する前に、現在のユーザー用の DB2 インスタンス環境を設定する必要があります。インスタンス環境を設定するには、*Instance_HOME*/sqlllib/db2profile (Bourne シェルおよび Korn シェル・ユーザーの場合) または *Instance_HOME*/sqlllib/db2chsrc (C シェル・ユーザーの場合) を使用できます (*Instance_HOME* はインスタンス所有者のホーム・ディレクトリ)。

第 4 部 DB2 製品ライセンス

第 8 章 DB2 ライセンス・ファイル

DB2 データベース製品に関連したライセンス・ファイルには、基本ライセンス・キーと完全ライセンス・キーの 2 つのタイプがあります。これらのライセンス・キーは非暗号化テキスト・ファイルで保管されており、通常ライセンス・ファイルまたはライセンス資格証明書と呼ばれます。

「基本」ライセンスでは使用権限は付与されません。これは、DB2 データベース製品のインストール・メディアに含まれており、インストール・プロセス時に自動的に適用されます。例えば、db2ese.lic は DB2 Enterprise Server Edition の基本ライセンス・ファイルです。

ライセンス・キーは、すべての DB2 データベース製品 (DB2 Connect™ を含む) およびオプションのデータベース・フィーチャーごとに必要です。ライセンス・キーは、アクティベーション CD の /db2/license ディレクトリーにあり、製品インストール・メディアの一部として提供されます。例えば、db2ese_u.lic はライセンス・キーであり、「DB2 Enterprise Server Edition for Linux, UNIX, and Windows - 許可ユーザー・シングル・インストール・オプション・アクティベーション」CD にあります。デフォルトでは、DB2 データベース製品のインストール中にライセンス・キーは適用されません。ただし、DB2 Express-C および DB2 Connect Personal Edition 製品にはアクティベーション CD が存在しないため、これらのライセンスはインストール処理中に自動的に適用されます。

ライセンス・ファイルのリストについては、38 ページの表 3 を参照してください。

通常、DB2 データベース製品のライセンスは、プロセッサ (プロセッサ・バリュー・ユニット (PVU) ごとに価格設定) または許可ユーザーごとに購入できます。また、DB2 Express Edition および DB2 Workgroup Server Edition それぞれに対して、Limited Use Virtual Server および Limited Use Socket 課金メトリックもあります。ただし DB2 Storage Optimization Feature は例外です。これは、PVU ごとのみ (および基本データベース・システムも PVU ごとにライセンス交付を受けている場合にのみ) 購入可能です。

DB2 データベース製品と別売りのフィーチャーを共に購入した場合は、複数のライセンス・キーを適用します。個々の DB2 データベース製品および DB2 フィーチャーに独自のライセンス・キーがあります。すべてのフィーチャーは、基本となる DB2 データベース製品と同じ課金メトリックで取得する必要があります。例えば、プロセッサごとのライセンスで DB2 Enterprise Server Edition を購入した場合、DB2 Performance Optimization Feature もプロセッサごとに購入する必要があります。

DB2 データベース製品またはフィーチャーを以下の Web サイトのうちの 1 つからダウンロードした場合、アクティベーション CD を持っていなければ、次のようにライセンス・キーを入手できます。

- パスポート・アドバンテージ (Passport Advantage®): アクティベーション CD イメージを以下のパスポート・アドバンテージ Web サイトから入手できます:
<http://www.ibm.com/software/lotus/passportadvantage/>。パスポート・アドバンテージ

を使用するには、製品およびフィーチャーごとに個別にアクティベーション CD イメージをダウンロードしなければなりません。

- PartnerWorld®: PartnerWorld に連絡して、適切なライセンス・キーを入手します。以下の PartnerWorld Web サイトを参照してください。
http://www.ibm.com/partnerworld/pwhome.nsf/weblook/index_pub.html。
- DB2 サポートまたは Fix Central Web サイト: ライセンス・キーを購入しなかった場合、IBM 営業担当員に連絡してください。

適切なライセンス・キーを入手したら、DB2 データベース製品を使用する前にそれらを適用します。ライセンス・キーの適用のことを、「ライセンス・キーの登録」あるいは「ライセンスの追加」とも呼びます。システム上にインストール済みの DB2 データベース製品とフィーチャーを把握および区別することができるため、DB2 データベース製品のライセンス・キーを登録することをお勧めします。DB2 データベース製品のライセンス条項については、<http://www.ibm.com/software/sla> を参照してください。

DB2 データベース製品またはフィーチャーのライセンスの管理は、**db2licm** ライセンス管理ツール・コマンドを使用して行います。

表 3. DB2 ライセンス・ファイル

ライセンス・ファイル名	DB2 データベース製品またはフィーチャー
db2aese_c.lic	DB2 Advanced Enterprise Server Edition (CPU オプション)
db2aese_u.lic	DB2 Advanced Enterprise Server Edition (許可ユーザー・シングル・インストール・オプション)
db2conpe.lic	DB2 Connect Personal Edition (クライアント・デバイス)
db2consv_as.lic	DB2 Connect Application Server Edition (CPU オプション)
db2consv_ee.lic	DB2 Connect Enterprise Edition (ユーザー・オプション)
db2consv_is.lic	DB2 Connect Unlimited Edition for System i (管理プロセッサ)
db2consv_zs.lic	DB2 Connect Unlimited Edition for System z (ホスト・サーバーおよび MSU)
db2dede.lic	IBM Database Enterprise Developer Edition
db2dpf.lic	DB2 Database Partitioning Feature
db2dsf.lic	DB2 pureScale Feature
db2ese_c.lic	DB2 Enterprise Server Edition (CPU オプション)
db2ese_u.lic	DB2 Enterprise Server Edition (許可ユーザー・シングル・インストール・オプション)
db2exp_c.lic	DB2 Express Edition (CPU オプション)
db2exp_s.lic	DB2 Express Edition (サーバー・オプション)
db2exp_sftl.lic	DB2 Express Edition (サーバー・オプションの一定期間のライセンス)

表 3. DB2 ライセンス・ファイル (続き)

ライセンス・ファイル名	DB2 データベース製品またはフィーチャー
db2exp_u.lic	DB2 Express Edition (許可ユーザー・シングル・インストール・オプション)
db2exp_uftl.lic	DB2 Express Edition (許可ユーザー・シングル・インストール・オプションの一定期間のライセンス)
db2expc_uw.lic	DB2 Express-C (保証なし)
db2so.lic	DB2 Storage Optimization Feature
db2wse_c.lic	DB2 Workgroup Server Edition (CPU オプション)
db2wse_sk.lic	DB2 Workgroup Server Edition (Limited Use Socket オプション)
db2wse_u.lic	DB2 Workgroup Server Edition (許可ユーザー・シングル・インストール・オプション)
bwdb2.lic	Base Warehouse Feature for DB2 (PVU オプション)
ewdb2.lic	Enterprise Warehouse Feature for DB2 (PVU オプション)
iwaee_c.lic	IBM InfoSphere® Warehouse Advanced Enterprise Edition (PVU オプション)
iwaee_tb.lic	IBM InfoSphere Warehouse Advanced Enterprise Edition (テラバイト・オプション)
iwadp_tb.lic	IBM InfoSphere Warehouse Advanced Departmental Edition (テラバイト・オプション)
iwdp_sk.lic	IBM InfoSphere Warehouse Departmental Edition (Limited Use Socket オプション)
iwebe.lic	IBM InfoSphere Warehouse Enterprise Base Edition (PVU オプション)
iwde.lic	IBM InfoSphere Warehouse Developer Edition
iwdp_tb.lic	InfoSphere Warehouse Departmental Edition (テラバイト・オプション)
iwdp_u.lic	IBM InfoSphere Warehouse Departmental Edition (許可ユーザー・シングル・インストール・オプション)
iwee.lic	IBM InfoSphere Warehouse Enterprise Edition (PVU オプション)
iwee_tb.lic	InfoSphere Warehouse Enterprise Edition (テラバイト・オプション)
sam32.lic	IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms (SA MP)
isfs.lic	InfoSphere Federation Server
isfs_d.lic	InfoSphere Federation Server Developer Edition
isrs.lic	InfoSphere Replication Server

表 3. DB2 ライセンス・ファイル (続き)

ライセンス・ファイル名	DB2 データベース製品またはフィーチャー
isrs_d.lic	InfoSphere Replication Server Developer Edition
isep.lic	InfoSphere Data Event Publisher
isep_d.lic	InfoSphere Data Event Publisher Developer Edition

_t.lic で終わるライセンス・ファイルが存在する場合、それらは試供ライセンスです。

第 9 章 db2licm コマンドによる DB2 データベース製品または フィーチャー・ライセンス・キーの登録

db2licm コマンドを使用して、ライセンス資格証明書の適用 (ライセンス・キーの登録ともいう) を実行することができます。

始める前に

このタスクを完了するためには、適切なライセンス・ファイル (*.lic) が必要です。

z/OS® サーバーまたは System i サーバーに接続するには、DB2 Connect ライセンス・キーを登録する必要があります。(パスポート・アドバンテージの配布物から db2conpe.lic などのライセンス・ファイルを取得し、ドライバーがインストールされたディレクトリーの下にあるライセンス・ディレクトリーにそのライセンス・ファイルをコピーします。)

DB2 Connect Unlimited Edition for z/OS を使用している場合、サーバー・ベースのライセンス・キーを使用します。この 1 つの手順によって、クライアント・ベースのライセンス・キーが必要なくなります。詳しくは、DB2 Connect Unlimited Edition for System z のライセンス・キーのアクティブ化に関するトピックを参照してください。

Windows オペレーティング・システムの場合、**-a** コマンド・パラメーターを指定して **db2licm** コマンドを使用するには、ローカル Administrators または Power Users グループに属している必要があります。

手順

- Windows オペレーティング・システムの場合、以下のコマンドを入力して DB2 ライセンス・キーを登録します。

```
db2instance_path%bin%db2licm -a filename
```

ここで *db2instance_path* は DB2 インスタンスが作成された場所で、*filename* は購入した製品またはフィーチャーに対応するライセンス・ファイルの絶対パス名とファイル名です。

- Linux オペレーティング・システムの場合、以下のコマンドを入力して DB2 ライセンス・キーを登録します。

```
INSTHOME/sql/lib/adm/db2licm -a filename
```

ここで *INSTHOME* はインスタンス所有者のホーム・ディレクトリーを表し、*filename* は購入した製品またはフィーチャーに対応するライセンス・ファイルの絶対パス名とファイル名です。**db2licm** コマンドは、DB2 データベース製品がインストールされているパス内にもあります。例えば、デフォルトのインストール・ディレクトリーを使用する場合、AIX®、HP-UX、または Solaris オペレーティング・システムの場合は /opt/ibm/db2/V10.1/adm になります。

第 10 章 DB2 ライセンスの準拠の確認

DB2 データベース製品およびフィーチャーには、それぞれに関連付けられたライセンス・キーが存在します。DB2 データベース製品またはフィーチャーを使用する前にライセンス・キーを登録する必要があります。ライセンス準拠を検査するには、**db2licm** コマンドを実行して、準拠レポートを生成します。

このタスクについて

注: DB2 データベース製品の試供版イメージをインストールした場合、このイメージには、ご使用のエディションで利用できるすべてのフィーチャーへのアクセス権が付帯しています。

手順

1. ご使用の DB2 データベース製品に対してライセンス・キーが登録されていることを確認します。
 - a. **db2licm -l** コマンドを発行します。
 - b. ライセンス・タイプ情報を調べます。
 - 「ライセンス・タイプ: "開発者"」と表示された場合は、ご使用の DB2 データベース製品が Database Enterprise Developer Edition for Linux, UNIX, and Windows の一部として入手されたことを意味します。この場合、IBM Database Enterprise Developer Edition のライセンス条項は、標準的な DB2 製品のライセンス条項よりも優先されます。
 - 「ライセンス・タイプ: "試用版"」と表示された場合は、ご使用の DB2 データベース製品が別の IBM 製品の一部として入手されたことを意味します。この場合、バンドルしている製品のライセンス条項が、標準的な DB2 製品のライセンス条項よりも優先されます。
 - 「ライセンス・タイプ: "ライセンス登録なし"」と表示された場合は、基本ライセンス・キーのみが登録されていることを意味します。DB2 データベース製品の適切な完全ライセンス・キーを登録する必要があります。
2. ご使用の DB2 フィーチャーに対してライセンス・キーが登録されていることを確認します。
 - a. **db2licm** コマンドを発行するか、ENV_FEATURE_INFO 管理ビューを照会して、準拠レポートを生成します。
 - **db2licm** コマンドを使用して準拠レポートを生成するには、次のコマンドを発行します。

```
db2licm -g filename
```

ここで、*filename* は出力を保管するパスおよびファイル名です。

- ENV_FEATURE_INFO 管理ビューで準拠情報を表示するには、データベースに接続して以下の照会を発行します。

```
SELECT * FROM SYSIBMADM.ENV_FEATURE_INFO
```

- b. 準拠レポートを分析します。使用されている DB2 フィーチャーのライセンス・キーがまだ登録されていない場合、準拠レポートにはフィーチャーが「違反 (In Violation)」としてリストされます。

第 11 章 試供ライセンスの更新

試供ライセンスで DB2 製品をインストールしていた場合に、フル・ライセンスに更新するには、製品ライセンス・キーを更新する必要があります。

始める前に

この方法を使用して、ある DB2 製品を別の製品に更新することはできません。

DB2 サーバー製品の以前のライセンス・コピーが存在していなければ、単一サーバー・フィックスバック・イメージを使用して、任意の DB2 データベース・サーバー製品をインストールできます。この場合、インストールされるライセンスは試供ライセンスです。

手順

DB2 ライセンスを更新するには、以下のようにします。

1. ライセンス・キーを取得します。ライセンス・キーは、以下のいずれかから入手できます。
 - パスポート・アドバンテージからダウンロードしたアクティベーション・キー。あるいは、
 - IBM から受け取った物理メディア・パックに入っているアクティベーション CD。
2. `db2licm` コマンドを使用してライセンス・キーを登録します。

注: 32 ビットの Linux 上の DB2 Enterprise Server Edition の試供ライセンスを、プロダクション・ライセンスに更新することはできません。

第 5 部 付録

付録 A. 応答ファイルによる DB2 製品のインストール

応答ファイルによるインストールの基礎

DB2 応答ファイル・インストールでは、ユーザーとの対話なしで DB2 製品をインストールできます。

応答ファイル は、セットアップ情報および構成情報を入れた英語のみのテキスト・ファイルです。応答ファイルは、構成パラメーターとセットアップ・パラメーターおよびインストールする製品とコンポーネントを指定します。

この方式は、DB2 の大規模なデプロイメントの場合だけでなく、カスタマイズ・インストールや構成の設定を、ユーザーに意識させることなく、DB2 インストール・プロセスに組み込む場合にも便利です。

以下のいずれかの方式で、応答ファイルを作成できます。

- `db2/platform/samples` ディレクトリーにある `db2dsf.rsp` サンプル応答ファイルを変更する (`platform` は該当オペレーティング・システムを表します)。
- DB2 セットアップ・ウィザードを使用して、ユーザーが指定したセットアップおよび構成データを保管する。応答ファイルを作成するオプションを DB2 セットアップ・ウィザードで選択した場合、応答ファイルはデフォルトでこの場所に保存されます。デフォルトでは、応答ファイルは `/tmp` に保存されます。

応答ファイル・インストールは、サイレント・インストールまたは無人インストールとも呼ぶことができます。

応答ファイルに関する考慮事項

応答ファイル・インストールを実行する前に、以下の考慮事項を知っておく必要があります。

- バージョン 9 で作成された応答ファイルとバージョン 10 で作成された応答ファイルはフォーマットが類似していますが、応答ファイルの使用可能範囲について、バージョンの制限があります。例えば、DB2 バージョン 10 で生成された応答ファイルは、DB2 バージョン 10 製品 (例えば、バージョン 10.1) のインストールだけに使用可能で、その応答ファイルは DB2 バージョン 9 のインストールには使用できません。その逆も同様で、DB2 バージョン 9 で生成された応答ファイルは DB2 バージョン 10 のインストールには使用できません。これは主に、バージョン 10 で新たに導入された必須キーワードが原因です。
- Linux プラットフォームでは、`root` インストール用に作成された応答ファイルは、非 `root` インストールには使用できない可能性があります。応答ファイルのキーワードの一部は、`root` インストールのみに有効です。
- DB2 セットアップ・ウィザードを使用する場合は、次のことが当てはまります。
 - インストール中に、「DB2 セットアップ」ウィザードの「インストール・アクションの選択」パネルで、応答ファイル中にご使用の設定を保管できます。

- 現在実行中のインストール内容に基づいて応答ファイルを作成することになります。構成が比較的単純な場合や、作成した応答ファイルを後でカスタマイズするつमोरの場合、この方法をお勧めします。
- 応答ファイルが生成されるのは、インストール・プロセスが完了することを許可し、それが正常に完了した場合だけです。インストールを取り消した場合や、インストールが失敗した場合は、応答ファイルは作成されません。
- この方法で作成された応答ファイルは、変更を加えないと **db2isetup** コマンドの **-r** パラメーターで使うことができません。セットアップ・ウィザードを使用して作成され、**db2isetup** コマンドで使われる応答ファイルは、以下の条件に合うように変更される必要があります。
 - キーワード **FILE** が含まれている必要がある
 - キーワード **PROD**、**LIC_AGREEMENT**、または **INSTALL_TYPE** が含まれてはいけなひ。
- 応答ファイルを使用すると、ネットワーク上のすべてのワークステーションで同じ構成をインストールしたり、DB2 データベース製品の複数の構成をインストールしたりできます。その後、この製品をインストールする各ワークステーションに、そのファイルを配布できます。
- 応答ファイル生成プログラムを使用する場合には、既存のインストール内容に基づいて応答ファイルを作成することになります。手動で構成したなどの理由で構成が比較的複雑な場合には、この方式をお勧めします。応答ファイル生成プログラムによって生成された応答ファイルを使用する場合、ユーザー名とパスワードを入力しなければならない場合があります。

DB2 セットアップ・ウィザードまたは DB2 インスタンスのセットアップ・ウィザードによる応答ファイルの作成

DB2 セットアップ・ウィザードまたは DB2 インスタンスのセットアップ・ウィザードを使用して、応答ファイルを作成できます。DB2 データベース製品のインストールを実際に行わなくても、GUI のパネルで選択した内容を応答ファイルに保存できます。

手順

- DB2 セットアップ・ウィザードを使用して応答ファイルを作成するには、次のようにします。
 1. **db2setup** コマンドを入力して DB2 インスタンスのセットアップ・ウィザードを起動します。
 2. 「インストールおよび応答ファイルの作成を選択」パネルで、「インストール設定を応答ファイルに保存する」オプションを選択します。生成される応答ファイルを DB2 インスタンスのセットアップ・ウィザードがコピーする場所を指定します。「次へ (Next)」をクリックします。
 3. 残りのパネルを適切な選択を行いながら進みます。
 4. 「ファイルのコピーの開始および応答ファイルの作成」パネルで、「完了」をクリックして応答ファイルを生成します。
- DB2 インスタンスのセットアップ・ウィザードを使用して応答ファイルを作成するには、次のようにします。

1. **db2isetup** コマンドを入力して DB2 インスタンスのセットアップ・ウィザードを起動します。
2. 「インストールおよび応答ファイルの作成を選択」パネルで、「**インストール設定を応答ファイルに保存する**」オプションを選択します。生成される応答ファイルを DB2 インスタンスのセットアップ・ウィザードがコピーする場所を指定します。「**次へ (Next)**」をクリックします。
3. 残りのパネルを適切な選択を行いながら進みます。
4. 「ファイルのコピーの開始および応答ファイルの作成」パネルで、「**完了**」をクリックして応答ファイルを生成します。

次のタスク

これで、生成された応答ファイルを使用して、同じ設定で無人インストールを実行できるようになりました。

付録 B. DB2 製品の更新のチェック

DB2 更新のチェック

製品の更新情報のチェックをすることにより、DB2 製品用に使用可能な製品の更新および機能拡張を確実に把握してください。

このタスクについて

DB2 製品のインストール中に、更新保守はデフォルトで使用可能になります。更新保守は、以下のような製品の更新に関して最新の情報を知らせます。

- DB2 製品のリリースおよび更新に関するメッセージ。
- チュートリアル、Web キャスト、およびホワイト・ペーパーなどの技術資料が利用可能かどうか。
- 関心の対象となる分野での、IBM マーケティングの活動。

以下のいずれかの方法で、製品の更新にアクセスできます。

- コマンド行の使用
- ファースト・ステップの使用
- Linux オペレーティング・システムで「メインメニュー (Main Menu)」を使用。
- Windows オペレーティング・システムで、「スタート」メニュー内のショートカットの使用。

制約事項

- この更新保守には、インターネット接続が必要です。
- Windows オペレーティング・システム上で、システム特権なしで DB2 製品をインストールした場合には、更新保守は使用できません。

手順

以下のいずれかの方法で、DB2 製品の更新および機能拡張にアクセスします。

- コマンド行を使用して、以下のように入力します。

```
db2updserv
```
- ファースト・ステップの使用:
 - **db2fs** コマンドを入力することによってファースト・ステップを開始することができます。
 - Windows オペレーティング・システムでは、「スタート」をクリックして、「プログラム」 > 「IBM DB2」 > [DB2 コピー名] > 「セットアップ・ツール」 > 「ファースト・ステップ」の順に選択します。
「製品の更新確認を開始」ボタンをクリックします。

- Windows オペレーティング・システムでは、「スタート」メニューのショートカット・メニューを使用して、「スタート」をクリックし、「プログラム」 > 「IBM DB2」 > [DB2 コピー名] > 「情報」 > 「DB2 更新のチェック」の順に選択します。
- Linux オペレーティング・システムで「メインメニュー (Main Menu)」をクリックして、「IBM DB2」 > 「DB2 更新のチェック」を選択します。

タスクの結果

この更新保守を使用して、使用可能な DB2 製品更新のリストを表示すること、および DB2 製品更新の詳細について学ぶことができます。

付録 C. DB2 フィックスパックの適用

フィックスパックの適用

DB2 データベースの実行環境を最新のフィックスパック・レベルに保って、操作で問題が生じないようにすることをお勧めします。フィックスパックを正常にインストールするには、インストール前およびインストール後に必要なタスクをすべて実行します。

このタスクについて

DB2 フィックスパックは、IBM でのテストの際に検出された問題に対するフィックス (プログラム診断依頼書 (APAR))、アップデート、およびお客様から報告された問題のフィックスを含んでいます。APARLIST.TXT ファイルは、各フィックスパックに含まれる修正点を説明しており、<ftp://ftp.software.ibm.com/ps/products/db2/fixes/english-us/aparlist/> からダウンロードして入手することができます。

フィックスパックは累積されます。つまり、ある任意のバージョンの DB2 データベースの最新のフィックスパックには、同じバージョンの DB2 データベースのそれまでのフィックスパックを更新した内容がすべて入っているということです。

使用できるフィックスパック・イメージは、以下のとおりです。

- 単一サーバー・イメージ。

単一サーバー・イメージには、すべての DB2 データベース・サーバー製品および IBM Data Server Clientに必要な、新規および更新されたコードが含まれます。複数の DB2 データベース・サーバー製品が単一の場所にインストールされている場合、DB2 データベース・サーバーのフィックスパックは、保守コード更新をすべてのインストールされた DB2 データベース・サーバー製品に適用します。Data Server Client のフィックスパックは、1 つの DB2 データベース・サーバーのフィックスパック (つまり、DB2 Enterprise Server Edition、DB2 Workgroup Server Edition、DB2 Express Edition、DB2 Connect Enterprise Edition、DB2 Connect Application Server Edition、DB2 Connect Unlimited Edition for zSeries[®]、および DB2 Connect Unlimited Edition for i5/OS[®] の各データベース・サーバー製品のいずれか 1 つを保守可能なフィックスパック) に含まれています。DB2 データベース・サーバーのフィックスパックを使用して、Data Server Clientをアップグレードできます。

また、単一サーバー・イメージは、すべての DB2 データベース・サーバー製品の特定のフィックスパック・レベルでのデフォルトの DB2 試用版ライセンスでのインストールに使用することもできます。

単一サーバーのフィックスパック・イメージには、すべての DB2 サーバー製品の DB2 試用版ライセンスが含まれています。新しい DB2 サーバー製品を選択してインストールするか、以前にインストールした DB2 サーバー製品を選択してアップデートすると、試用版ライセンスがインストールされます。試用版ライセンスは、同じ DB2 インストール・パスに既にインストールされている有効な

ライセンスには全く影響を及ぼしません。DB2 Connect サーバー製品の場合、**db2licm -l** コマンドを実行して有効なライセンスを照会すると、DB2 Connect サーバー製品の試用版ライセンスが無効なライセンスとして表示されることがあります。しかし、DB2 Connect 機能を使用する必要がない場合には、このレポートは無視してかまいません。DB2 Connect サーバーの試用版ライセンスを削除するには、**db2licm** コマンドを使用してください。

- その他の DB2 データベース製品ごとのフィックスパック。

このフィックスパックは、サーバー以外のデータベース製品またはアドオン製品をインストールする場合にのみ使用します。例えば、IBM Data Server Runtime Client。

インストールしている DB2 データベース製品が DB2 データベース・サーバー製品または Data Server Client のみの場合は、このタイプのフィックスパックは使用しないでください。代わりに、単一サーバー・イメージのフィックスパックを使用します。

Windows プラットフォームの場合、複数の DB2 データベース製品 (それには Data Server Client または DB2 データベース・サーバーではない製品が少なくとも 1 つ含まれている) が 1 つの DB2 コピー内にインストールされていれば、それに対応する製品固有のフィックスパックをすべてダウンロードして解凍してから、フィックスパックのインストール・プロセスを開始する必要があります。

- Universal フィックスパック。

Universal フィックスパックは、既に複数の DB2 データベース製品がインストールされている場合のインストールに用います。

インストールしている DB2 データベース製品が DB2 データベース・サーバー製品または Data Server Client のみの場合は、Universal フィックスパックは必要ありません。この場合は、単一サーバー・イメージのフィックスパックを使用してください。

Linux オペレーティング・システム上で、各国語がインストールされている場合、それぞれの各国語フィックスパックも別途必要になります。各国語フィックスパックのみをインストールすることはできません。Universal フィックスパックまたは製品固有のフィックスパックも一緒に適用されていなければならない、なおかつそれらの両方のフィックスパック・レベルが同じでなければなりません。例えば、Universal フィックスパックを Linux 上の英語以外の DB2 データベース製品に適用する場合、DB2 データベース製品を更新するには Universal フィックスパックと各国語フィックスパックの両方を適用する必要があります。

制約事項

- DB2 バージョン 10.1 フィックスパックは、DB2 バージョン 10.1 一般出荷版 (GA) または DB2 バージョン 10.1 フィックスパックのコピーにのみ適用可能です。
- フィックスパックをインストールする前に、すべての DB2 インスタンス、DAS、および更新される DB2 コピーに関連するアプリケーションを停止してください。

- パーティション・データベース環境では、フィックスパックのインストールの前に、すべてのデータベース・パーティション・サーバー上のデータベース・マネージャを停止する必要があります。フィックスパックは、インスタンス所有データベース・パーティション・サーバーおよび他のすべてのデータベース・パーティション・サーバーにインストールする必要があります。インスタンスに参加しているすべてのコンピューターを同じフィックスパック・レベルに更新する必要があります。
- Linux オペレーティング・システムの場合:
 - DB2 データベース製品がネットワーク・ファイル・システム (NFS) 上にある場合、フィックスパックをインストールする前に、すべてのインスタンス、DB2 Administration Server (DAS)、プロセス間通信 (IPC)、および同じ NFS マウント・インストールを使用する他のマシン上のアプリケーションが完全に停止していることを確認する必要があります。
 - システム・コマンド **fuser** または **lsof** が使用できない場合、**installFixPack** コマンドはロード済みの DB2 データベース・ファイルを検出できません。DB2 ファイルがロードされていないことを確認し、フィックスパックをインストールするためのオーバーライド・オプションを指定する必要があります。Linux 上では、**fuser** コマンドまたは **lsof** コマンドが必要です。

オーバーライド・オプションの詳細については、**installFixPack** コマンドを参照してください。
- クライアント・アプリケーション上では、フィックスパックを適用した後に、アプリケーションの自動バインドを実行するために、ユーザーはバインド権限を持っている必要があります。
- DB2 フィックスパックをインストールしても、IBM Data Studio Administration Console または IBM Data Studio にはサービスは提供されません。

手順

フィックスパックをインストールするには、次のようにします。

1. フィックスパックの前提条件を調べます。
2. フィックスパックのインストール前の必要なタスクを実行します。
3. フィックスパックのインストール方法を選択し、フィックスパックをインストールします。
4. フィックスパック・インストール後の必要なタスクを実行します。
5. 該当する DB2 データベース製品ライセンスを適用します。

DB2 データベース・サーバー製品の以前のライセンス・コピーがマシンに存在していなければ、単一サーバー・フィックスパック・イメージを使用して、任意の DB2 データベース・サーバー製品をインストールできます。この場合、インストールした DB2 データベース製品は、試用版ライセンスとして扱われます。この試用版ライセンスをアップグレードしない限り、90 日の試用期間後に稼働を停止します。

次のタスク

インストール後に実行するステップ、エラー・メッセージ、および推奨処置がないかをログ・ファイルで確認してください。

Linux 上での非ルート・インストールの場合、ルート・ベースのフィーチャー (High Availability やオペレーティング・システム・ベースの認証など) は、**db2rfe** コマンドを使用することにより有効にすることができます。root ベースのフィーチャーが DB2 データベース製品のインストール後に使用可能になっていた場合、それらのフィーチャーを再び使用可能にするために、フィックスパックを適用するたびに **db2rfe** コマンドを再実行する必要があります。

複数の DB2 コピーが同一システム上にある場合、それらのコピーのバージョンとフィックスパック・レベルはそれぞれ異なっている可能性があります。1 つ以上の DB2 コピーにフィックスパックを適用したい場合、それぞれの DB2 コピーにフィックスパックを 1 つずつインストールする必要があります。

付録 D. DB2 製品のアンインストール

DB2 データベース製品のアンインストール (Windows)

ここでは、Windows オペレーティング・システムから DB2 データベース製品を完全に削除する方法について説明します。この作業は、既存の DB2 インスタンスおよびデータベースが必要でなくなった場合以外は実行しないでください。

このタスクについて

デフォルトの DB2 コピーをアンインストールする場合、他の DB2 コピーがシステム上に存在するならば、アンインストールを続行する前に、**db2swtch** コマンドを使って新しいデフォルト・コピーを選択します。さらに、除去対象のコピーのもとで DB2 Administration Server (DAS) が稼働している場合、除去されないコピーに DAS を移します。それ以外の場合には、アンインストールの後に **db2admin create** コマンドを使用して DAS を再作成してから、何らかの機能を使用するために DAS を再び構成します。

手順

Windows から DB2 データベース製品を削除するには、以下のステップを実行します。

1. オプション: データベースをすべてドロップするには、**drop database** コマンドを使用します。ドロップするデータベースが本当に必要でなくなったかどうかを確かめてください。データベースをドロップすると、すべてのデータが失われます。
2. すべての DB2 プロセスおよびサービスを停止します。それには、Windows の「サービス」パネルを使用するか、または **db2stop** コマンドを使用します。DB2 データベース製品を削除する前に DB2 のサービスおよびプロセスを停止しないなら、メモリー中に DB2 DLL がロードされているプロセスとサービスのリストを示す警告が表示されます。「プログラムの追加と削除」を使用して DB2 データベース製品を除去する場合、このステップはオプションとなります。
3. DB2 データベース製品の削除に関しては、以下の 2 つのオプションがあります。
 - 「プログラムの追加と削除」

Windows の「コントロール パネル」の「プログラムの追加と削除」ウィンドウを使用して、DB2 データベース製品を削除します。Windows オペレーティング・システムからソフトウェア製品を除去することについての詳細情報については、オペレーティング・システムのヘルプを参照してください。

- **db2unins** コマンド

DB2 データベース製品、フィーチャー、または言語を除去するには、**DB2DIR\bin** ディレクトリーから **db2unins** コマンドを実行できます。このコマンドで **/p** パラメーターを使用すると、複数の DB2 データベース製品を同

時にアンインストールできます。 /u パラメーターを使用することにより、応答ファイルを使用して、DB2 データベース製品、フィーチャー、または言語をアンインストールできます。

次のタスク

残念ながら、「コントロール パネル」 > 「プログラムの追加と削除」機能を使用しても、あるいは `db2unins /p` コマンドまたは `db2unins /u` コマンドを使用しても、DB2 データベース製品を必ず削除できるわけではありません。前述の方法が失敗した場合にのみ、以下のアンインストール・オプションを試行してください。

強制的にすべての DB2 コピーを Windows システムから除去するには、`db2unins /f` コマンドを実行します。このコマンドは、システム上のすべての DB2 コピーを強引にアンインストールします。DB2 データベースなどのユーザー・データ以外は、すべて強制的に削除されます。このコマンドに /f パラメーターを指定して実行する前に、`db2unins` コマンドの詳細を参照してください。

DB2 データベース製品のアンインストール (Linux)

ここでは、Linux オペレーティング・システムから DB2 データベース製品を除去するためのステップを示します。

このタスクについて

新しいバージョンの DB2 データベース製品をインストールする場合、この作業は不要です。Linux 上の DB2 データベース製品は、バージョンごとにインストール・パスが異なっているため、同じコンピューター上に複数のバージョンを共存させることが可能です。

注: この作業は、ルート・ユーザー権限を使用してインストールされた DB2 データベース製品に適用されます。非 root ユーザーとしてインストールされた DB2 データベース製品をアンインストールする方法については、別のトピックで説明しています。

手順

DB2 データベース製品を除去するには、以下のステップを実行します。

1. オプション: すべてのデータベースをドロップします。データベースをドロップするには、**DROP DATABASE** コマンドを使用します。データベースを先にドロップせずにインスタンスをドロップした場合、データベース・ファイルは引き続きファイル・システムに存在します。
2. DB2 Administration Server を停止します。「DB2 サーバー機能 インストール」の資料を参照してください。
3. DB2 Administration Server を除去するか、または `dasupdt` コマンドを実行して DB2 Administration Server を別のインストール・パスに更新します。DB2 Administration Server を除去するには、「DB2 サーバー機能 インストール」の資料を参照してください。
4. すべての DB2 インスタンスを停止します。「DB2 サーバー機能 インストール」の資料を参照してください。

5. DB2 インスタンスを除去するか、または **db2iupdt** コマンドを実行してインスタンスを別のインストール・パスに更新します。DB2 インスタンスを除去するには、「DB2 サーバー機能 インストール」の資料を参照してください。
6. DB2 データベース製品を除去します。「DB2 サーバー機能 インストール」の資料を参照してください。

DB2 Administration Server の停止 (Linux)

DB2 製品を除去する前に、DB2 Administration Server (DAS) を停止する必要があります。

このタスクについて

重要: DB2 Administration Server (DAS) は、バージョン 9.7 で非推奨となり、将来のリリースで除去される可能性があります。DAS は、DB2 pureScale環境ではサポートされていません。リモート管理のためには、Secure Shell プロトコルを使用するソフトウェア・プログラムを使用してください。詳しくは、『DB2 Administration Server (DAS) が推奨されなくなった』()を参照してください。

DB2 製品をアンインストールする際、他の DB2 コピーがある場合には、DAS をドロップする必要があります。他に DB2 のコピーが存在する場合は、**dasupdt** コマンドを実行して、DAS を他の DB2 コピーに関連付けることが推奨されています。DAS をドロップすることに決めた場合は、まず DAS を停止させる必要があります。

注: このタスクは、非 root インストールされた DB2 製品には適用されません。

手順

DB2 Administration Server を停止するには、以下のステップを実行します。

1. DB2 Administration Server の所有者としてログインします。
2. **db2admin stop** コマンドを入力することによって、DB2 Administration Server を停止します。

DB2 Administration Server の除去 (Linux)

最後の DB2 のコピーを除去する場合は、DB2 データベース製品を除去する前に DB2 Administration Server (DAS) を除去する必要があります。

このタスクについて

重要: DB2 Administration Server (DAS) は、バージョン 9.7 で非推奨となり、将来のリリースで除去される可能性があります。DAS は、DB2 pureScale環境ではサポートされていません。リモート管理のためには、Secure Shell プロトコルを使用するソフトウェア・プログラムを使用してください。詳しくは、『DB2 Administration Server (DAS) が推奨されなくなった』()を参照してください。

DB2 のコピーを除去する場合に、他にも DB2 のコピーが存在するなら、DB2 DAS を関連付ける DB2 コピーから、**dasupdt** コマンドを実行します。

制約事項

この作業は、root ユーザー権限を使用してインストールされた DB2 データベース製品にのみ適用されます。

手順

DAS を除去するには、次のようにします。

1. root ユーザー権限を持つユーザーとしてログインします。
2. DAS を停止させます。例えば、次のようにします。
`db2admin stop`
3. DAS を除去します。以下のコマンドを入力します。

```
DB2DIR/instance/dasdrop
```

ここで *DB2DIR* は、DB2 データベース製品のインストールの際に指定した場所です。Linux の場合のデフォルト・インストール・パスは `/opt/ibm/db2/V10.1` です。

root DB2 インスタンスの停止 (Linux)

アンインストールしている DB2 コピーに関連付けられているすべての DB2 インスタンスを停止する必要があります。他の DB2 コピーに関連付けられているインスタンスは、現行コピーをアンインストールしても影響を受けません。

このタスクについて

手順

DB2 インスタンスを停止するには、

1. root ユーザー権限を持つユーザーとしてログインします。
2. 次のコマンドを入力して、現行の DB2 コピーに関連付けられている全 DB2 インスタンスの名前のリストを取得します。

```
DB2DIR/bin/db2ilist
```

ここで *DB2DIR* は、DB2 データベース製品のインストールの際に指定した場所です。Linux の場合のデフォルト・インストール・パスは `/opt/ibm/db2/V10.1` です。

3. スクリプトが `.profile` に含まれていなければ、スクリプトを実行します。

```
. INSTHOME/sql1lib/db2profile (bash, Bourne, または Korn シェルの場合)  
source INSTHOME/sql1lib/db2cshrc (C シェルの場合)
```

INSTHOME は、インスタンスのホーム・ディレクトリーです。

4. 以下のファイルを保管することが推奨されています。
 - データベース・マネージャー構成ファイル `$HOME/sql1lib/db2system`
 - ノード構成ファイル `$HOME/sql1lib/db2nodes.cfg`
 - `$HOME/sql1lib/function` にあるユーザー定義関数または fenced ストアード・プロシージャ・アプリケーション
5. **db2stop force** コマンドを入力することにより、DB2 データベース・マネージャーを停止します。

6. **db2 terminate** コマンドを入力して、実際にインスタンスが停止していることを確認します。
7. インスタンスごとに、上記の手順を繰り返します。

DB2 インスタンスの除去 (Linux)

ここでは、システムから root インスタンスの一部またはすべてを除去する方法について説明します。DB2 データベース製品を使用しないことにした場合、または既存のインスタンスをそれ以降のバージョンの DB2 データベース製品にアップグレードしないようにする場合のみ、DB2 インスタンスを除去するようにしてください。

このタスクについて

最後の DB2 バージョン 9 のコピーを除去する場合は、DB2 データベース製品を除去する前に DB2 インスタンスを除去できます。DB2 バージョン 9 のコピーを除去する場合で、他にも DB2 バージョン 9 のコピーが存在する場合は、DB2 インスタンスを関連付ける DB2 コピーから、**db2iupdt** コマンドを実行できます。

インスタンスを除去した後、同じリリースの別のインスタンスのもとでデータベースをカタログすれば、元のインスタンスによって所有された DB2 データベースを使用できます。インスタンスを除去してもデータベースは引き続き存在するため、データベース・ファイルを明示的に削除しない限りデータベースを再使用できます。

アップグレードでは、DB2 データベースの新しいバージョンと古いバージョンの両方が依然としてインストールされていることが必要となります。関連付けられている DB2 コピーが除去されたインスタンスをアップグレードすることはできません。

制約事項

この作業は、非 root インストールには適用されません。非ルート・インスタンスを削除するには、DB2 データベース製品をアンインストールする必要があります。

手順

インスタンスを除去するには、以下のステップを実行します。

1. root ユーザー権限を持つユーザーとしてログインします。
2. オプション: 関連付けられているデータベースのデータが必要でなくなったことが確かである場合は、インスタンスをドロップする前に、データベース・ファイルをシステムから除去するか、あるいはデータベースをドロップすることができます。
3. 下記のコマンドを入力して、インスタンスを除去します。

```
DB2DIR/instance/db2idrop InstName
```

ここで *DB2DIR* は、DB2 データベース製品のインストールの際に指定した場所です。Linux の場合のデフォルト・インストール・パスは */opt/ibm/db2/V10.1* です。

db2idrop コマンドは、インスタンスのリストからインスタンスの項目を除去し、*INSTHOME/sqllib* ディレクトリを除去します (*INSTHOME* はインスタン

スのホーム・ディレクトリー、*InstName* はインスタンスのログイン名)。
/sql1lib ディレクトリーにファイルを保管している場合、それらのファイルはこのアクションによって除去されます。そうしたファイルがまだ必要ならば、インスタンスをドロップする前にコピーを作成しなければなりません。

4. オプション: root ユーザー権限を付与されたユーザーとして、インスタンス所有者のユーザー ID とグループを除去します (そのインスタンス専用の場合)。インスタンスを再び作成する予定の場合、それらは除去しないでください。

注: インスタンス所有者とインスタンス所有者グループは他の目的のために使用されることがあるので、このステップはオプションです。

db2_deinstall および doce_deinstall コマンドを使用した DB2 データベース製品の除去 (Linux)

ここでは、**db2_deinstall** および **doce_deinstall** コマンドを使用して、DB2 データベース製品または DB2 データベース・コンポーネントを除去するステップについて説明します。

始める前に

システムから DB2 データベース製品を除去する前に、60 ページの『DB2 データベース製品のアンインストール (Linux)』にまとめられているすべてのステップが実行済みであることを確認してください。

このタスクについて

この作業は、root ユーザー権限を使用してインストールされた DB2 データベース製品に適用されます。

db2_deinstall コマンドを実行すると、システムから DB2 データベース製品が除去されます。

doce_deinstall コマンドは、**doce_deinstall** ツールと同じインストール・パスに存在する *DB2* インフォメーション・センター を除去します。

制約事項

- オペレーティング・システム固有のユーティリティー (**rpm**、**SMIT** など) を使って DB2 データベース製品を除去することはできません。
- **doce_deinstall** コマンドは、Linux オペレーティング・システム (Linux x32 および x64) 上でのみ使用可能です。

手順

特定のパスから DB2 データベース製品、フィーチャーまたは *DB2* インフォメーション・センター を除去するには、以下のようにします。

1. root ユーザー権限でログインします。
2. DB2 データベース製品のあるパスにアクセスします。
3. 以下のコマンドのいずれかを実行します。

- 現在の場所で、インストールされている DB2 データベース製品のフィーチャーを除去する場合は、*DB2DIR/install* ディレクトリーから **db2_deinstall -F** コマンドを実行します。
- 現在の場所で、インストールされているすべての DB2 データベース製品を除去する場合は、*DB2DIR/install* ディレクトリーから **db2_deinstall -a** コマンドを実行します。
- 応答ファイルを使用して DB2 データベース製品を除去するには、**db2_deinstall -r response_file** コマンドを *DB2DIR/install* ディレクトリーから実行します。サンプルの応答ファイルを使用して、製品をアンインストールできます。例えば、**doce_deinstall -r db2un.rsp** を実行します。
- 現在の場所で *DB2* インフォメーション・センター を除去する場合は、*DB2DIR/install* ディレクトリーから **doce_deinstall -a** を実行します。
- 応答ファイルを使用して *DB2* インフォメーション・センター を除去するには、**doce_deinstall -r response_file** を *DB2DIR/install* ディレクトリーから実行します。サンプルの応答ファイルを使用して、インフォメーション・センターをアンインストールできます。例えば、**doce_deinstall -r doceun.rsp** を実行します。

ここで *DB2DIR* は、DB2 データベース製品のインストールの際に指定した場所です。

付録 E. DB2 技術情報の概説

DB2 技術情報は、さまざまな方法でアクセスすることが可能な、各種形式で入手できます。

DB2 技術情報は、以下のツールと方法を介して利用できます。

- DB2インフォメーション・センター
 - トピック (タスク、概念、およびリファレンス・トピック)
 - サンプル・プログラム
 - チュートリアル
- DB2 資料
 - PDF ファイル (ダウンロード可能)
 - PDF ファイル (DB2 PDF DVD に含まれる)
 - 印刷資料
- コマンド行ヘルプ
 - コマンド・ヘルプ
 - メッセージ・ヘルプ

注: DB2 インフォメーション・センターのトピックは、PDF やハードコピー資料よりも頻繁に更新されます。最新の情報を入手するには、資料の更新が発行されたときにそれをインストールするか、ibm.com にある DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

技術資料、ホワイト・ペーパー、IBM Redbooks® 資料などのその他の DB2 技術情報には、オンライン (ibm.com) でアクセスできます。DB2 Information Management ソフトウェア・ライブラリー・サイト (<http://www.ibm.com/software/data/sw-library/>) にアクセスしてください。

資料についてのフィードバック

DB2 の資料についてのお客様からの貴重なご意見をお待ちしています。DB2 の資料を改善するための提案については、db2docs@ca.ibm.com まで E メールを送信してください。DB2 の資料チームは、お客様からのフィードバックすべてに目を通しますが、直接お客様に返答することはありません。お客様が関心をお持ちの内容について、可能な限り具体的な例を提供してください。特定のトピックまたはヘルプ・ファイルについてのフィードバックを提供する場合は、そのトピック・タイトルおよび URL を含めてください。

DB2 お客様サポートに連絡する場合には、この E メール・アドレスを使用しないでください。資料を参照しても、DB2 の技術的な問題が解決しない場合は、お近くの IBM サービス・センターにお問い合わせください。

DB2 テクニカル・ライブラリー (ハードコピーまたは PDF 形式)

以下の表は、IBM Publications Center (www.ibm.com/e-business/linkweb/publications/servlet/pbi.wss) から利用できる DB2 ライブラリーについて説明しています。英語および翻訳された DB2 バージョン 10.1 のマニュアル (PDF 形式) は、www.ibm.com/support/docview.wss?rs=71&uid=swg2700947 からダウンロードできます。

この表には印刷資料が入手可能かどうかを示されていますが、国または地域によっては入手できない場合があります。

資料番号は、資料が更新される度に大きくなります。資料を参照する際は、以下にリストされている最新版であることを確認してください。

注: DB2 インフォメーション・センターは、PDF やハードコピー資料よりも頻繁に更新されます。

表 4. DB2 の技術情報

資料名	資料番号	印刷資料が入手可能かどうか	最終更新
管理 API リファレンス	SA88-4671-00	入手可能	2012 年 4 月
管理ルーチンおよびビュー	SA88-4672-00	入手不可	2012 年 4 月
コール・レベル・イン ターフェース ガイドお よびリファレンス 第 1 巻	SA88-4676-00	入手可能	2012 年 4 月
コール・レベル・イン ターフェース ガイドお よびリファレンス 第 2 巻	SA88-4677-00	入手可能	2012 年 4 月
コマンド・リファレン ス	SA88-4673-00	入手可能	2012 年 4 月
データベース: 管理の 概念および構成リファ レンス	SA88-4662-00	入手可能	2012 年 4 月
データ移動キューティ リティー ガイドおよび リファレンス	SA88-4693-00	入手可能	2012 年 4 月
データベースのモニタ リング ガイドおよび リファレンス	SA88-4663-00	入手可能	2012 年 4 月
データ・リカバリーと 高可用性 ガイドおよび リファレンス	SA88-4694-00	入手可能	2012 年 4 月
データベース・セキュ リティー・ガイド	SA88-4695-00	入手可能	2012 年 4 月

表 4. DB2 の技術情報 (続き)

資料名	資料番号	印刷資料が入手可能かどうか	最終更新
DB2 ワークロード管理ガイドおよびリファレンス	SA88-4685-00	入手可能	2012 年 4 月
ADO.NET および OLE DB アプリケーションの開発	SA88-4665-00	入手可能	2012 年 4 月
組み込み SQL アプリケーションの開発	SA88-4666-00	入手可能	2012 年 4 月
Java アプリケーションの開発	SA88-4669-00	入手可能	2012 年 4 月
Perl、PHP、Python および Ruby on Rails アプリケーションの開発	SA88-4670-00	入手不可	2012 年 4 月
SQL および外部ルーチンの開発	SA88-4667-00	入手可能	2012 年 4 月
データベース・アプリケーション開発の基礎	GI88-4279-00	入手可能	2012 年 4 月
DB2 インストールおよび管理 概説 (Linux および Windows 版)	GI88-4280-00	入手可能	2012 年 4 月
グローバル化・ローカライゼーション・ガイド	SA88-4696-00	入手可能	2012 年 4 月
DB2 サーバー機能 インストール	GA88-4679-00	入手可能	2012 年 4 月
IBM データ・サーバー・クライアント機能 インストール	GA88-4680-00	入手不可	2012 年 4 月
メッセージ・リファレンス 第 1 巻	SA88-4688-00	入手不可	2012 年 4 月
メッセージ・リファレンス 第 2 巻	SA88-4689-00	入手不可	2012 年 4 月
Net Search Extender 管理およびユーザズ・ガイド	SA88-4691-00	入手不可	2012 年 4 月
パーティションおよびクラスタリングのガイド	SA88-4697-00	入手可能	2012 年 4 月
pureXML ガイド	SA88-4686-00	入手可能	2012 年 4 月
Spatial Extender ユーザズ・ガイドおよびリファレンス	SA88-4690-00	入手不可	2012 年 4 月

表 4. DB2 の技術情報 (続き)

資料名	資料番号	印刷資料が入手可能 かどうか	最終更新
SQL プロシージャ言語: アプリケーション のイネーブルメントお よびサポート	SA88-4668-00	入手可能	2012 年 4 月
SQL リファレンス 第 1 巻	SA88-4674-00	入手可能	2012 年 4 月
SQL リファレンス 第 2 巻	SA88-4675-00	入手可能	2012 年 4 月
Text Search ガイド	SA88-4692-00	入手可能	2012 年 4 月
問題判別およびデータ ベース・パフォーマンス のチューニング	SA88-4664-00	入手可能	2012 年 4 月
DB2 バージョン 10.1 へのアップグレード	SA88-4678-00	入手可能	2012 年 4 月
DB2 バージョン 10.1 の新機能	SA88-4684-00	入手可能	2012 年 4 月
XQuery リファレンス	SA88-4687-00	入手不可	2012 年 4 月

表 5. DB2 Connect 固有の技術情報

資料名	資料番号	印刷資料が入手可能 かどうか	最終更新
DB2 Connect DB2 Connect Personal Edition インストールお よび構成	SA88-4681-00	入手可能	2012 年 4 月
DB2 Connect DB2 Connect サーバー機能 インストールおよび構 成	SA88-4682-00	入手可能	2012 年 4 月
DB2 Connect ユーザー ズ・ガイド	SA88-4683-00	入手可能	2012 年 4 月

コマンド行プロセッサから SQL 状態ヘルプを表示する

DB2 製品は、SQL ステートメントの結果の原因になったと考えられる条件の SQLSTATE 値を戻します。SQLSTATE ヘルプは、SQL 状態および SQL 状態クラス・コードの意味を説明します。

手順

SQL 状態ヘルプを開始するには、コマンド行プロセッサを開いて以下のように入力します。

```
? sqlstate または ? class code
```

ここで、*sqlstate* は有効な 5 桁の SQL 状態を、*class code* は SQL 状態の最初の 2 桁を表します。

例えば、? 08003 を指定すると SQL 状態 08003 のヘルプが表示され、? 08 を指定するとクラス・コード 08 のヘルプが表示されます。

異なるバージョンの DB2 インフォメーション・センターへのアクセス

他のバージョンの DB2 製品の資料は、ibm.com[®] のそれぞれのインフォメーション・センターにあります。

このタスクについて

DB2 バージョン 10.1 のトピックを扱っている DB2 インフォメーション・センターの URL は、<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2luw/v10r1> です。

DB2 バージョン 9.8 のトピックを扱っている DB2 インフォメーション・センターの URL は、<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2luw/v9r8/> です。

DB2 バージョン 9.7 のトピックを扱っている DB2 インフォメーション・センターの URL は、<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2luw/v9r7/> です。

DB2 バージョン 9.5 のトピックを扱っている DB2 インフォメーション・センターの URL は、<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2luw/v9r5> です。

DB2 バージョン 9.1 のトピックを扱っている DB2 インフォメーション・センターの URL は、<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2luw/v9/> です。

DB2 バージョン 8 のトピックについては、DB2 インフォメーション・センターの URL (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2luw/v8/>) を参照してください。

コンピューターまたはイントラネット・サーバーにインストールされた DB2 インフォメーション・センターの更新

ローカルにインストールした DB2 インフォメーション・センターは、定期的に更新する必要があります。

始める前に

DB2 バージョン 10.1 インフォメーション・センターが既にインストール済みである必要があります。詳しくは、「DB2 サーバー機能 インストール」の『DB2 セットアップ・ウィザードによる DB2 インフォメーション・センターのインストール』のトピックを参照してください。インフォメーション・センターのインストールに適用されるすべての前提条件と制約事項は、インフォメーション・センターの更新にも適用されます。

このタスクについて

既存の DB2 インフォメーション・センターは、自動で更新することも手動で更新することもできます。

- 自動更新は、既存のインフォメーション・センターのフィーチャーと言語を更新します。自動更新を使用すると、手動更新と比べて、更新中にインフォメーション

ン・センターが使用できなくなる時間が短くなるというメリットがあります。さらに、自動更新は、定期的に行う他のバッチ・ジョブの一部として実行されるように設定することができます。

- 手動更新は、既存のインフォメーション・センターのフィーチャーと言語の更新に使用できます。自動更新は更新処理中のダウン時間を減らすことができますが、フィーチャーまたは言語を追加する場合は手動処理を使用する必要があります。例えば、ローカルのインフォメーション・センターが最初は英語とフランス語でインストールされており、その後ドイツ語もインストールすることにした場合、手動更新でドイツ語をインストールし、同時に、既存のインフォメーション・センターのフィーチャーおよび言語を更新できます。しかし、手動更新ではインフォメーション・センターを手動で停止、更新、再始動する必要があります。更新処理の間はずっと、インフォメーション・センターは使用できなくなります。自動更新処理では、インフォメーション・センターは、更新を行った後に、インフォメーション・センターを再始動するための停止が発生するだけで済みます。

このトピックでは、自動更新のプロセスを詳しく説明しています。手動更新の手順については、『コンピューターまたはイントラネット・サーバーにインストールされた DB2 インフォメーション・センターの手動更新』のトピックを参照してください。

手順

コンピューターまたはイントラネット・サーバーにインストールされている DB2 インフォメーション・センターを自動更新する手順を以下に示します。

1. Linux オペレーティング・システムの場合、次のようにします。
 - a. インフォメーション・センターがインストールされているパスにナビゲートします。デフォルトでは、DB2 インフォメーション・センターは、`/opt/ibm/db2ic/V10.1` ディレクトリーにインストールされています。
 - b. インストール・ディレクトリーから `doc/bin` ディレクトリーにナビゲートします。
 - c. 次のように `update-ic` スクリプトを実行します。

```
update-ic
```
2. Windows オペレーティング・システムの場合、次のようにします。
 - a. コマンド・ウィンドウを開きます。
 - b. インフォメーション・センターがインストールされているパスにナビゲートします。デフォルトでは、DB2 インフォメーション・センターは、`<Program Files>%IBM%DB2 Information Center%バージョン 10.1` ディレクトリーにインストールされています (`<Program Files>` は「Program Files」ディレクトリーのロケーション)。
 - c. インストール・ディレクトリーから `doc%bin` ディレクトリーにナビゲートします。
 - d. 次のように `update-ic.bat` ファイルを実行します。

```
update-ic.bat
```

タスクの結果

DB2 インフォメーション・センターが自動的に再始動します。更新が入手可能な場合、インフォメーション・センターに、更新された新しいトピックが表示されます。インフォメーション・センターの更新が入手可能でなかった場合、メッセージがログに追加されます。ログ・ファイルは、`doc\%eclipse%configuration` ディレクトリにあります。ログ・ファイル名はランダムに生成された名前です。例えば、`1239053440785.log` のようになります。

コンピューターまたはイントラネット・サーバーにインストールされた DB2 インフォメーション・センターの手動更新

DB2 インフォメーション・センターをローカルにインストールしている場合は、IBM から資料の更新を入手してインストールすることができます。

このタスクについて

ローカルにインストールされた *DB2* インフォメーション・センター を手動で更新するには、以下のことを行う必要があります。

1. コンピューター上の *DB2* インフォメーション・センター を停止し、インフォメーション・センターをスタンドアロン・モードで再始動します。インフォメーション・センターをスタンドアロン・モードで実行すると、ネットワーク上の他のユーザーがそのインフォメーション・センターにアクセスできなくなります。これで、更新を適用できるようになります。*DB2* インフォメーション・センターのワークステーション・バージョンは、常にスタンドアロン・モードで実行されます。を参照してください。
2. 「更新」機能を使用することにより、どんな更新が利用できるかを確認します。インストールしなければならない更新がある場合は、「更新」機能を使用してそれを入手およびインストールできます。

注: ご使用の環境において、インターネットに接続されていないマシンに *DB2* インフォメーション・センター の更新をインストールする必要がある場合、インターネットに接続されていて *DB2* インフォメーション・センター がインストールされているマシンを使用して、更新サイトをローカル・ファイル・システムにミラーリングしてください。ネットワーク上の多数のユーザーが資料の更新をインストールする場合にも、更新サイトをローカルにミラーリングして、更新サイト用のプロキシを作成することにより、個々のユーザーが更新を実行するのに要する時間を短縮できます。

更新パッケージが入手可能な場合、「更新」機能を使用してパッケージを入手します。ただし、「更新」機能は、スタンドアロン・モードでのみ使用できます。

3. スタンドアロンのインフォメーション・センターを停止し、コンピューター上の *DB2* インフォメーション・センター を再開します。

注: Windows 2008、Windows Vista (およびそれ以上) では、このセクションの後の部分でリストされているコマンドは管理者として実行する必要があります。完全な管理者特権でコマンド・プロンプトまたはグラフィカル・ツールを開くには、ショートカットを右クリックしてから、「管理者として実行」を選択します。

手順

コンピューターまたはイントラネット・サーバーにインストール済みの DB2 インフォメーション・センターを更新するには、以下のようにします。

1. DB2 インフォメーション・センターを停止します。
 - Windows では、「スタート」 > 「コントロール パネル」 > 「管理ツール」 > 「サービス」をクリックします。次に、「DB2 インフォメーション・センター」サービスを右クリックして「停止」を選択します。
 - Linux では、以下のコマンドを入力します。

```
/etc/init.d/db2icdv10 stop
```
2. インフォメーション・センターをスタンドアロン・モードで開始します。
 - Windows の場合:
 - a. コマンド・ウィンドウを開きます。
 - b. インフォメーション・センターがインストールされているパスにナビゲートします。デフォルトでは、DB2 インフォメーション・センターは、`Program_Files\IBM\DB2 Information Center\バージョン 10.1` ディレクトリーにインストールされています (`Program_Files` は Program Files ディレクトリーのロケーション)。
 - c. インストール・ディレクトリーから `doc\bin` ディレクトリーにナビゲートします。
 - d. 次のように `help_start.bat` ファイルを実行します。

```
help_start.bat
```
 - Linux の場合:
 - a. インフォメーション・センターがインストールされているパスにナビゲートします。デフォルトでは、DB2 インフォメーション・センターは、`/opt/ibm/db2ic/V10.1` ディレクトリーにインストールされています。
 - b. インストール・ディレクトリーから `doc/bin` ディレクトリーにナビゲートします。
 - c. 次のように `help_start` スクリプトを実行します。

```
help_start
```

システムのデフォルト Web ブラウザーが開き、スタンドアロンのインフォメーション・センターが表示されます。
3. 「更新」ボタン (🔄) をクリックします。(ブラウザーで JavaScript が有効になっている必要があります。) インフォメーション・センターの右側のパネルで、「更新の検索」をクリックします。既存の文書に対する更新のリストが表示されます。
4. インストール・プロセスを開始するには、インストールする更新をチェックして選択し、「更新のインストール」をクリックします。
5. インストール・プロセスが完了したら、「完了」をクリックします。
6. 次のようにして、スタンドアロンのインフォメーション・センターを停止します。
 - Windows の場合は、インストール・ディレクトリーの `doc\bin` ディレクトリーにナビゲートしてから、次のように `help_end.bat` ファイルを実行します。

help_end.bat

注: help_end バッチ・ファイルには、help_start バッチ・ファイルを使用して開始したプロセスを安全に停止するのに必要なコマンドが含まれています。help_start.bat は、Ctrl-C や他の方法を使用して停止しないでください。

- Linux の場合は、インストール・ディレクトリーの doc/bin ディレクトリーにナビゲートしてから、次のように help_end スクリプトを実行します。

help_end

注: help_end スクリプトには、help_start スクリプトを使用して開始したプロセスを安全に停止するのに必要なコマンドが含まれています。他の方法を使用して、help_start スクリプトを停止しないでください。

7. DB2 インフォメーション・センター を再開します。

- Windows では、「スタート」 > 「コントロール パネル」 > 「管理ツール」 > 「サービス」をクリックします。次に、「DB2 インフォメーション・センター」サービスを右クリックして「開始」を選択します。
- Linux では、以下のコマンドを入力します。

```
/etc/init.d/db2icdv10 start
```

タスクの結果

更新された DB2 インフォメーション・センター に、更新された新しいトピックが表示されます。

DB2 チュートリアル

DB2 チュートリアルは、DB2 データベース製品のさまざまな機能について学習するための支援となります。この演習をとおして段階的に学習することができます。

はじめに

インフォメーション・センター (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2luw/v10r1/>) から、このチュートリアルの XHTML 版を表示できます。

演習の中で、サンプル・データまたはサンプル・コードを使用する場合があります。個々のタスクの前提条件については、チュートリアルを参照してください。

DB2 チュートリアル

チュートリアルを表示するには、タイトルをクリックします。

「*pureXML* ガイド」の『**pureXML**®』

XML データを保管し、ネイティブ XML データ・ストアに対して基本的な操作を実行できるように、DB2 データベースをセットアップします。

DB2 トラブルシューティング情報

DB2 データベース製品を使用する際に役立つ、トラブルシューティングおよび問題判別に関する広範囲な情報を利用できます。

DB2 の資料

トラブルシューティング情報は、「問題判別およびデータベース・パフォーマンスのチューニング」または *DB2* インフォメーション・センターの『データベースの基本』セクションにあります。ここには、以下の情報が記載されています。

- *DB2* 診断ツールおよびユーティリティーを使用した、問題の切り分け方法および識別方法に関する情報。
- 最も一般的な問題のうち、いくつかの解決方法。
- *DB2* データベース製品で発生する可能性のある、その他の問題の解決に役立つアドバイス。

IBM サポート・ポータル

現在問題が発生していて、考えられる原因とソリューションを見つけるには、IBM サポート・ポータルを参照してください。Technical Support サイトには、最新の *DB2* 資料、TechNotes、プログラム診断依頼書 (APAR またはバグ修正)、フィックスパック、およびその他のリソースへのリンクが用意されています。この知識ベースを活用して、問題に対する有効なソリューションを探し出すことができます。

IBM サポート・ポータル (http://www.ibm.com/support/entry/portal/Overview/Software/Information_Management/DB2_for_Linux,_UNIX_and_Windows) にアクセスしてください。

ご利用条件

これらの資料は、以下の条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

適用度: これらのご利用条件は、IBM Web サイトのあらゆるご利用条件に追加で適用されるものです。

個人使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布 (頒布、送信を含む) または表示 (上映を含む) することはできません。

商業的使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

権利: ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。

IBM の商標: IBM、IBM ロゴおよび ibm.com は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

付録 F. 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。IBM 以外の製品に関する情報は、本書の最初の発行時点で入手可能な情報に基づいており、変更される場合があります。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510
東京都中央区日本橋箱崎町19番21号
日本アイ・ビー・エム株式会社
法務・知的財産
知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。 IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Canada Limited
U59/3600
3600 Steeles Avenue East
Markham, Ontario L3R 9Z7
CANADA

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、

利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。サンプル・プログラムは、現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる種類の保証も提供されません。IBM は、これらのサンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても責任を負いません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生した創作物には、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名) (西暦年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。© Copyright IBM Corp. _年を入れる_. All rights reserved.

商標

IBM、IBM ロゴおよび ibm.com は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

以下は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

- Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。
- Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。
- インテル、Intel、Intel ロゴ、Intel Inside、Intel Inside ロゴ、Celeron、Intel SpeedStep、Itanium、Pentium は、Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Microsoft、Windows、Windows NT、および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

アンインストール

DAS 61

DB2 データベース製品

Windows 59

db2_deinstall コマンド 64

doce_deinstall コマンド 64

インスタンス

除去 63

停止

Linux 62

UNIX 62

ドロップ 63

インストール

応答ファイル

概要 49

タイプ 49

検査

CLP の使用 31

セキュリティ 17

フィックスバック 55

要件

Linux 13

Windows 5

Windows のシステム特権 7

インストール後の作業

メインメニュー項目 33

応答ファイル

インストール

タイプ 49

概要 49

作成

DB2 セットアップ・ウィザード 50

場所 49, 50

オペレーティング・システム

インストール要件

Linux 13

Windows 5

[カ行]

更新

チェック 53

DB2 インフォメーション・センター 71, 73

コマンド

db2idrop

インスタンスの除去 63

db2ilist 62

db2sampl

インストールの検査 31

db2stop

DB2 の停止 62

db2_deinstall

DB2 製品の除去 64

doce_deinstall

製品の除去 64

コマンド行プロセッサ (CLP)

インストール検査 31

ご利用条件

資料 76

[サ行]

サイレント・インストール

概要 49

試供ライセンスの更新

db2licm 45

システム管理者グループ 10

資料

印刷 68

概要 67

使用に関するご利用条件 76

PDF ファイル 68

スワップ・スペース

参照: ページング・スペース

ソフトウェア要件

Linux 13

Windows 5

[タ行]

チュートリアル

トラブルシューティング 76

問題判別 76

リスト 75

pureXML 75

停止

DB2 Administration Server 61

root インスタンス 62

ディスク・スペース

要件 3

特記事項 79

トラブルシューティング

オンライン情報 76

チュートリアル 76

ドロップ
root インスタンス 63

[ハ行]

ハードウェア
要件
DB2 サーバー製品 (Linux) 13
DB2 サーバー製品 (Windows) 5
IBM データ・サーバー・クライアント (Linux) 13
IBM データ・サーバー・クライアント (Windows) 5
ファースト・ステップ
製品の更新 53
フィックスパック
適用 55
ページング・スペース
要件 3
ヘルプ
SQL ステートメント 70

[マ行]

メモリー
要件
概要 3
問題判別
チュートリアル 76
利用できる情報 76

[ヤ行]

ユーザー特権
Windows 10

[ラ行]

ライセンス
概要 37
試供ライセンスの更新 45
準拠
検査 43
登録
db2licm コマンド 41

D

DB2 Administration Server (DAS)
除去 61
停止 61
DB2 インフォメーション・センター
更新 71, 73
バージョン 71

DB2 サーバー
インストール
Windows 21
DB2 セットアップ・ウィザード
インストール
DB2 サーバー (Linux)/DB2 サーバー (UNIX) 25
応答ファイルの作成 50
db2isetup コマンド
応答ファイルの作成 50
db2licm
試供ライセンスの更新 45
db2licm コマンド
準拠の検査 43
ライセンスの管理 37
ライセンスの登録 41
db2_deinstall コマンド
DB2 製品の除去 64
doce_deinstall コマンド
製品の除去 64

L

Linux
インストール
DB2 サーバー 13, 25
IBM データ・サーバー・クライアント 13
ライブラリー
libaio.so.1 13
libstdc so.5 13
DB2 のアンインストール
root インスタンス 63

R

root インスタンス
除去 63

S

SQL ステートメント
ヘルプ
表示 70
SYSADM (システム管理) 権限
Windows 10
sysadm_group 構成パラメーター
Windows 10

U

UNIX
インストール
DB2 セットアップ・ウィザード 25
除去
DB2 root インスタンス 63
DB2 製品 64

W

Windows

インストール

DB2 サーバー (要件) 5

DB2 サーバー (DB2 セットアップ・ウィザードを使用した) 21

IBM データ・サーバー・クライアント (要件) 5

システム管理者権限 10

システム特権のセットアップ 7

ユーザー権限の付与 10

DB2 のアンインストール 59



Printed in Japan

GI88-4280-00



日本アイ・ビー・エム株式会社

〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19-21

Spine information:

IBM DB2 10.1 for Linux, UNIX, and Windows

DB2 インストールおよび管理 概説 (Linux および Windows 版)

